

水産技術センター生産棟屋根改修その他工事

図 面 リ ス ト		
図面番号	図面名称	縮尺
A-01	表紙・図面リスト	――
A-02	特記仕様書（１）	――
A-03	特記仕様書（２）	――
A-04	特記仕様書（３）	――
A-05	特記仕様書（４）	――
A-06	特記仕様書（５）	――
A-07	配置図	――
A-08	撤去図・仮設（参考）図	1:200 1:400
A-09	改修図	1:400
A-10	各種詳細図 1	――
A-11	各種詳細図 2	――
A-12	各種詳細図 3	――
A-13	旧エビ水槽撤去平面・断面図	――
A-14	旧エビ水槽改修平面・断面図	――

工事名称： 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事					
	工事場所	泉南郡阿多奈川谷川 2926-1			
	工事概要	敷地面積： 8930.67 m ²			
		建物名称	生産棟		合計
		構造・階数	S 造 2 階		—
		建築面積			m ²
		床面積	階	m ²	—
			階	m ²	—
			階	m ²	—
			階	m ²	—
			階	m ²	—
		延べ面積	6266.22 m ²		m ²
	既設部分	構造・階数：			
	建築面積：	m ²	延べ面積：	m ² ：	
	工事範囲	図示による			
別途工事					
地域地区等	区域	・市街化区域 ○市街化調整区域			
	用途地域	・() 住居専用地域 ・() 住居地域 ・近隣商業地域 ・商業地域 ・準工業地域 ・工業地域 ・工業専用地域 ○指定なし			
	防火地域	・防火地域 ・準防火地域 ・指定なし ○第 22 条指定区域内			
	その他	○毛造 ・砂防 ・風致 ・都市公園 ・河川保全・土地区画整理・() 種高度地区			
	※建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分	風速(V0)： ・3.0 ・3.2 ○3.4 ・() 地表面粗度区分：Ⅰ ○Ⅱ Ⅲ Ⅳ			
設計図書	図面 14 葉(本特記仕様書を含む)、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書令和 4 年度版(以下「改修標仕」という。))及び同建築工事標準仕様書令和 4 年度版(以下「標仕」という。))、補足説明書、図面・補足説明書に対する質問回答書				

第 1 章 一般共通事項	
※ 本特記仕様書の取り扱い方	特記事項は○印を付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
※ 設計図書の優先順位	(1)図面・補足説明書に対する質問回答書 (2)補足説明書 (3)特記仕様書 (4)仕上表 (5)別冊の図面 (6)改修標仕 (7)標仕
※ 指定材料	材料の商品名、製造所、施工業者などは、特記されたもの又は監督職員が同等以上と認めたものを使用すること。
※ 材料についての注意事項	計画通知等において、使用できる材料、工法が限定されている場合があるため、それ以外の材料を使用する場合は、監督職員との協議により、適切に手続き等を行うこと。
※ 工法の記載のない材料	特記仕様書、改修標仕に工法が記載されていない材料は製造所、施工業者等の標準仕様により施工すること。
※ 防火材料	法定防火材料及び法定耐火材料、耐火構造、その他法に定めのあるものはその認定ラベル、認定番号等を示し監督職員の承諾を得ること。
※ 再生材料の品質等	・再生クラッシュランの品質及び粒度範囲は(社)日本道路協会「プラント再生舗装技術指針」の表 4・5 及び表 4・6 による。 ・再生加熱アスファルト混合物のマーシャル安定度試験の基準値及び粒度範囲は、プラント再生舗装技術指針の表 4・5 及び表 4・6 による。 ・再生材料の適用についてやむを得ない事情がある場合は、監督職員の承認の上、新材とすることが出来る。
※ 工事に伴う諸手続	給排水、電気、その他の工事設備の配置、撤去の手続き、及び道路交通法、災害及び公害防止諸法その他工事に伴う諸手続は、受注者が行うこと。
※ 既存部分との取り合い	既設建物と今回工事との取合い部分その他で、はつり、及び工事の都合などにより破損、損傷させた箇所は、今回仕上及び旧仕上同材によって完全に補修しなければならない。取合い部分以外でも今回工事による損傷と認められた場合も同様とする。
・ 境界杭の確認	隣地及び道路との境界は、工事着手と同時にこれを確認し、境界杭の埋没、倒壊、滅失のおそれのある箇所は十分に養生及び保存を行う。
※ 材料検査に伴う試験	試験の基準は、日本産業規格(JIS)、基本標準規格(JES)、日本農林規格(JAS)、日本建築学会標準仕様書(JASS)とし、これらの規格に規定のないものについては、本仕様書の該当各項目又は監督職員の指示による。
※ 引き渡し及び管理責任	完成検査に合格したときは書類を添えて引き渡すものとする。 なお、工事完成後引き渡しまでの管理責任は請負者とする。 また、引渡しの状況により引き続き維持管理を求めることがある。
※ 別途工事に対する協力義務	建築本工事受注者等は別契約請負者に対して、仮設建物用地の確保、工事進入路、足場、工事用人載エレベーター等の使用について協力すること。
※ 分別解体等	工事に伴い副次的に生ずる建築資材廃棄物は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律を遵守し、その種類ごとに分別しつつ施工すること。
※ 有価発生材の処置	特記なき限り本工事費から、有価発生材の見積価格を控除する方法によって受注者が引き取ること。
※ 建設副産物の処理	建設副産物の処理の方法は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設副産物適正処理推進条例(平成 5 年 1 月 12 日建設省経建発第 3 号)その他関係法令等を遵守して行うこと。処理方法については、補足説明書等による。 又、監督職員が指示する場合は処理地への搬入日時、処理時の写真等を報告書にまとめて提出すること。
※ 再資源化を図る建設副産物	再生資源化を図る建設副産物は、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、() となる。 再資源化を図る建設副産物の処理地は、再資源化を行っている中間処理場とする。ただし、受入側の事情等やむを得ない事情により、処理地を変更する場合は監督職員の承諾を得なければならない。
※ 特別管理産業廃棄物	※有(大波スレート) () ・無
※ 建設機械	低騒音型の機械を使用すること。また、排出ガス対策型の機械の使用に努めること。
・ 技能士	・適用しない ・適用する(適用工事種別：・鉄筋・型枠・コンクリート圧送・())

		適用する工事については、1 名以上の一般技能士が従事すること。 (コンクリート圧送についてはポンプ車 1 台毎に一般技能士を 1 名配置すること) ※その他の工事についても、できるだけ 1 名以上の技能士が従事するよう努めること。																																	
※	設備工事等との取扱い	(△印は備品) <table><tr><th colspan="2">建築工事</th><th>設備工事等</th></tr><tr><td>1. 開口部補強 (設備機器、管、ダクト等)</td><td>a.鉄筋コンクリート造部分については鉄筋補強 b.木造、軽鉄下地、ALC 板等の部分については、下地枠取付補強、並びに内装材 (天井、壁、床等) 家具類の切り込み</td><td>イ.スリーブ、箱入れ等の材料及び取り付け ロ.ダクト、配管取り付け後の開口部 ハ.左記の電源接続</td></tr><tr><td>2. 電気工事関係</td><td>a.換気扇枠 b.自動シャッター式 c.エンジンドアー式</td><td>イ.換気扇本体及び取り付け ロ.エレベーター三方枠 ハ.左記の電源接続</td></tr><tr><td>3. 給排水衛生工事関係</td><td>a.浴槽 b.マット排水 c.図面に特記したカガミ</td><td>イ.便所、浴室、湯沸室の床排水 ロ.一般用の洗面用カガミ</td></tr><tr><td>4. 点検口</td><td>床、天井の点検口</td><td></td></tr><tr><td>5. 排気フード</td><td>排気フードの化粧板</td><td>排気フードの製作及び取付</td></tr><tr><td>6. 屋上配管貫通</td><td>雨仕舞(防水)</td><td></td></tr><tr><td>7. 煙感知器連動防火扉</td><td>煙、煙感知器連動装置用切込、補強</td><td>煙感知器連動装置</td></tr><tr><td>8. カーテンボックス等</td><td>カーテンボックス、カーテンレール、ブラインドボックス</td><td>△カーテン、△暗幕、△ブラインド</td></tr></table>		建築工事		設備工事等	1. 開口部補強 (設備機器、管、ダクト等)	a.鉄筋コンクリート造部分については鉄筋補強 b.木造、軽鉄下地、ALC 板等の部分については、下地枠取付補強、並びに内装材 (天井、壁、床等) 家具類の切り込み	イ.スリーブ、箱入れ等の材料及び取り付け ロ.ダクト、配管取り付け後の開口部 ハ.左記の電源接続	2. 電気工事関係	a.換気扇枠 b.自動シャッター式 c.エンジンドアー式	イ.換気扇本体及び取り付け ロ.エレベーター三方枠 ハ.左記の電源接続	3. 給排水衛生工事関係	a.浴槽 b.マット排水 c.図面に特記したカガミ	イ.便所、浴室、湯沸室の床排水 ロ.一般用の洗面用カガミ	4. 点検口	床、天井の点検口		5. 排気フード	排気フードの化粧板	排気フードの製作及び取付	6. 屋上配管貫通	雨仕舞(防水)		7. 煙感知器連動防火扉	煙、煙感知器連動装置用切込、補強	煙感知器連動装置	8. カーテンボックス等	カーテンボックス、カーテンレール、ブラインドボックス	△カーテン、△暗幕、△ブラインド					
建築工事		設備工事等																																	
1. 開口部補強 (設備機器、管、ダクト等)	a.鉄筋コンクリート造部分については鉄筋補強 b.木造、軽鉄下地、ALC 板等の部分については、下地枠取付補強、並びに内装材 (天井、壁、床等) 家具類の切り込み	イ.スリーブ、箱入れ等の材料及び取り付け ロ.ダクト、配管取り付け後の開口部 ハ.左記の電源接続																																	
2. 電気工事関係	a.換気扇枠 b.自動シャッター式 c.エンジンドアー式	イ.換気扇本体及び取り付け ロ.エレベーター三方枠 ハ.左記の電源接続																																	
3. 給排水衛生工事関係	a.浴槽 b.マット排水 c.図面に特記したカガミ	イ.便所、浴室、湯沸室の床排水 ロ.一般用の洗面用カガミ																																	
4. 点検口	床、天井の点検口																																		
5. 排気フード	排気フードの化粧板	排気フードの製作及び取付																																	
6. 屋上配管貫通	雨仕舞(防水)																																		
7. 煙感知器連動防火扉	煙、煙感知器連動装置用切込、補強	煙感知器連動装置																																	
8. カーテンボックス等	カーテンボックス、カーテンレール、ブラインドボックス	△カーテン、△暗幕、△ブラインド																																	
※	化学物質を放散する建築材料等	ホルムアルデヒドの放散量が、「規制対象外材料」に該当する建築材料とは以下のものをいう。(以下「規制対象外材料」という。) ①JIS 及び JAS の F☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のある JAS 規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 ホルムアルデヒドの放散量が、「第三種材料」に該当する建築材料とは以下のものをいう。(以下「第三種材料」という。) ①JIS 及び JAS の F☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第 20 条の 7 第 3 項による国土交通大臣認定品 ③旧 JIS の Eo 規格品 ④旧 JAS の Eco 規格品																																	
・	化学物質の濃度測定	揮発性有機化合物の室内濃度の測定：※ 測定する ・測定しない 測定室：内装改修を行った室のうち、仕上表に特記した室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告すること。 なお、特記なき場合は全室測定すること。 測定箇所数：室の床面積 (A m ²) に対して、以下の箇所で数以上とする。 <table><tr><th>室の床面積(m²)</th><th>A ≤50</th><th>50<A ≤200</th><th>200<A ≤500</th><th>500<A</th></tr><tr><th>測定箇所数</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th></tr></table> 測定対象化学物質： (一般施設・住宅) ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン (学校) 上記＋パラジクロロベンゼン 空気採取方式：※拡散方式(パッシブ型採取機器)・吸引方式 測定要領等：室内空気中化学物質の濃度調査要領(大阪府都市整備部住宅局公共建築室)による。		室の床面積(m ²)	A ≤50	50<A ≤200	200<A ≤500	500<A	測定箇所数	1	2	3	4																						
室の床面積(m ²)	A ≤50	50<A ≤200	200<A ≤500	500<A																															
測定箇所数	1	2	3	4																															
※	1.5.1 事前調査	石綿含有建材の調査を行う 調査範囲： 既存設計図書：・有 ○無 石綿含有材調査報告書：・有 (箇所：) ○なし																																	
※	施工中の環境保全等	建築基準法、建設リサイクル法、環境基本法(平成 5 年法律第 91 号)、騒音基本法(昭和 43 年法律第 98 号)、振動規制法(昭和 51 年法律第 64 号)、大気汚染防止法(昭和 43 年法律第 97 号)、水質汚濁防止法(昭和 45 年法律第 138 号)、廃棄物処理法、土壌汚染対策法(平成 14 年法律第 53 号)、資源有効利用促進法その他関係法令等に定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に依い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉塵、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないよう、周辺環境の保全に努めること。																																	
※	火災保険等	○要(建設工事保険) ・要(火災保険又は組立保険) ・不要																																	
※	工事の記録	<table><tr><th>撮影工程</th><th>撮影箇所</th><th>箇所</th><th>印面の大きさ</th><th>部数</th><th>備考</th></tr><tr><td>現況</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>着工前</td><td>解体建物のある場合は 4 方向から</td><td>4</td><td>L 版</td><td>1</td><td>カラー</td></tr><tr><td>工事中</td><td>施工の状況部分詳細図</td><td>指示</td><td>L 版</td><td>1</td><td>カラー 営繕工事写真撮影要領による工事写真撮影ガイドブックを参照</td></tr><tr><td rowspan="2">完成時</td><td>外観</td><td>2</td><td rowspan="2">2L 版以上</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">カラー ・仕上げ等を記入 ・画像データを保存した CD-R を提出</td></tr><tr><td>屋内</td><td>全室 2 面以上</td></tr></table>		撮影工程	撮影箇所	箇所	印面の大きさ	部数	備考	現況		2				着工前	解体建物のある場合は 4 方向から	4	L 版	1	カラー	工事中	施工の状況部分詳細図	指示	L 版	1	カラー 営繕工事写真撮影要領による工事写真撮影ガイドブックを参照	完成時	外観	2	2L 版以上	2	カラー ・仕上げ等を記入 ・画像データを保存した CD-R を提出	屋内	全室 2 面以上
撮影工程	撮影箇所	箇所	印面の大きさ	部数	備考																														
現況		2																																	
着工前	解体建物のある場合は 4 方向から	4	L 版	1	カラー																														
工事中	施工の状況部分詳細図	指示	L 版	1	カラー 営繕工事写真撮影要領による工事写真撮影ガイドブックを参照																														
完成時	外観	2	2L 版以上	2	カラー ・仕上げ等を記入 ・画像データを保存した CD-R を提出																														
	屋内	全室 2 面以上																																	
※	1.8.1 完成時の提出図書	(1) 完成図：※要 ・不要 <table><tr><th>形式</th><th>部数</th><th>備考</th></tr><tr><td>完成製本 二つ折り (A1)</td><td>-</td><td rowspan="2">白焼き製本</td></tr><tr><td>完成製本 二つ折り (A3)</td><td>2</td></tr></table> (2) 完成写真：※要 ・不要 <table><tr><th>形式</th><th>部数</th><th>備考</th></tr><tr><td>2L 版</td><td>1</td><td>アルバム共</td></tr></table> (3) 保全に関する資料：※要 ・不要 <table><tr><th>保全に関する資料</th><th>形式</th><th>部数</th><th>備考</th></tr><tr><td>施設保全資料【施設カルテ】</td><td rowspan="2">左折 (A4)</td><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">最速幅のバイプファイルにインデックス</td></tr><tr><td>物品引渡書</td></tr></table>		形式	部数	備考	完成製本 二つ折り (A1)	-	白焼き製本	完成製本 二つ折り (A3)	2	形式	部数	備考	2L 版	1	アルバム共	保全に関する資料	形式	部数	備考	施設保全資料【施設カルテ】	左折 (A4)	1	最速幅のバイプファイルにインデックス	物品引渡書									
形式	部数	備考																																	
完成製本 二つ折り (A1)	-	白焼き製本																																	
完成製本 二つ折り (A3)	2																																		
形式	部数	備考																																	
2L 版	1	アルバム共																																	
保全に関する資料	形式	部数	備考																																
施設保全資料【施設カルテ】	左折 (A4)	1	最速幅のバイプファイルにインデックス																																
物品引渡書																																			

	鍵等明細書		綴りとする。
	引渡し予備品一覧		
	主要材料一覧		
	使用材料一覧表		
	保証書		
	取扱説明書		
	試験成績書		
	施工体系図		
	建退関係書類		
	官公署届出書類（副本等）		
	現場書類収納一覧表		
	その他必要と認める書類		

(4)「大阪府営繕工事電子納品要領」に基づき、以下の書類を CD-R 又は DVD-R に保存し、監督職員に 2 部提出すること。

電子データ	保存形式
完成図	オリジナル CAD、DXF、PDF
完成写真	Excel 又は PDF
施設保全資料【施設カルテ】	Excel
物品引渡書	PDF
鍵等明細書	PDF
引渡し予備品一覧表	PDF
主要材料一覧	PDF
使用材料一覧表	PDF
保証書	PDF
取扱説明書	PDF
試験成績書	PDF
工事写真	PDF
施工体系図	PDF
官公署届出書類	PDF
再生資源利用（計画・実施）書	Excel 又は PDF
再生資源利用（促進）（計画・実施）書	Excel 又は PDF
施工図	PDF
産業廃棄物管理票（マニフェスト）	PDF
その他必要と認める書類	PDF

第 2 章 仮設工事											
※ 仮囲い	・シート張 ○フェンスバリケード H=1.8m (○シート張) ・カラー鋼板囲い(・H=3.0m ・H=() m (・設置済 ・一部修設)) ・() (H=() m (・設置済 ・一部修設)) ・防音シート ・防音パネル										
※ 2.2.1 足場その他	○本足場 (W= ○600 ・900 ・1200) ・鋼管単管足場 ・その他() 設置する足場、作業構台等は、関連工事等の関係者に無償で使用させること。										
※ 災害防止シート	○養生シート(Ⅰ類) ・防音シート ・養生金網 ・朝顔 ・防音パネル ・防護柵 ・その他()										
・ 材料、撤去材等の運搬方法	・A 種 ・B 種 ・C 種 ・D 種 ・E 種										
・ 2.3.2 仮設間仕切り	・A 種 ・B 種 ・C 種										
※ 2.4.1 監督職員事務所	・○ ○1号：10 m ² ・2号：20 m ² ・3号：35 m ² ・4号：65 m ² ・5号：100 m ² ・不要 ・不要(但し、維持管理費の共同負担を要する。) 監督職員事務所の仕上げは下表を標準とする。 <table><tr><th>部位等</th><th>仕上げ</th></tr><tr><td>床</td><td>合板張り又はビニル床シート張り</td></tr><tr><td>内壁・天井</td><td>合板又は石膏ボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り</td></tr><tr><td>屋根</td><td>塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り</td></tr><tr><td>休憩室等</td><td>炬燵き</td></tr></table>	部位等	仕上げ	床	合板張り又はビニル床シート張り	内壁・天井	合板又は石膏ボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り	屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り	休憩室等	炬燵き
部位等	仕上げ										
床	合板張り又はビニル床シート張り										
内壁・天井	合板又は石膏ボード張り、合成樹脂エマルションペイント塗り										
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り										
休憩室等	炬燵き										
※ 監督員事務所の備品等	備品：※要 ・不要 監督職員事務所には監督職員の指示により、電灯、給排水その他の設備を設ける。なお、設置する備品等は下記を標準とする。(別契約工事の監督職員分を含む。) 机、いす、書棚、ホワイトボード、掛時計、寒暖計、会議机、折りたたみ椅子、電話及びファクシミリ、複写機、パソコン(プロバイダー契約含む)、カラープリンター、デジタルカメラ、文具一式、ゴム長靴、雨かっぱ、防護服、懐中電灯、墜落制止用器具、流し台、湯沸器、冷蔵庫、衣類ロッカー、消火器、掃除機、冷暖房機器 維持管理(光熱水費、電話使用料、消耗品などを含む)、ハネス										
・ 事務員	・要(人) ○不要										
※ 交通誘導員	警備業法第 2 条第 4 項に規定する警備員で交通誘導業務に従事するもの ・要(工事期間中常駐 人、うち、検定合格警備員 人) ○要(スポット 50 人日、うち、検定合格警備員 人日) ・不要										
・ 高圧洗浄機	※要(※1 台 ・台) ・不要										
※ 工事用設備等	給排水、電気、その他の工事用設備の設置、撤去は受注者が行うこと。 また、工事期間中に掛かった費用についても、受注者負担のこと。										

第 3 章 防水改修工事	
1 節 一般事項	
※ 3.1.3 施工一般	降雨等に対する養生方法 ・() とする。
※ 3.1.4 改修工法の種類及び工程	・() 工法【表 3.1.1】 ・() 工法【表 3.1.1】 ・P1E 工法、P2E 工法、P1Y 工法、P2Y 工法、PIS 工法における保護層の新設(・シーリング改修工法の種類() 工法【表 3.1.2】)
2 節 既存防水層等の撤去及び既存下地の処理	

3.2.5 ルーフドレン回りの処理	改修ドレン：※設ける ・設けない
・ 3.2.6 既存下地の処理	・補修箇所の形状、長さ、数量 形状：() 長さ：() 数量：() M4AS 工法、M4ASH 工法、M4C 工法、M4DI 工法の場合の既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去 ・必要 ・不要 L4X 工法の場合の既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装の除去 ・必要 ・不要 POS 工法、POSI 工法(機械的固定方法) 既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理：() 架台回り等の処理：()
3 節 アスファルト防水	
・ 3.3.2 材料	・アスファルトルーフィング類 ・部分粘着層付改質アスファルトルーフィング及び改質アスファルトルーフィングシート JISA6013 改質アスファルトルーフィングシート 種類：() 厚さ：() ・部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート：非露出複層防水層 R 種 ・改質アスファルトルーフィングシート：露出単層防水層 R 種 押入金物の材質及び形状寸法 材質：・() 製) ・アルミニウム製 形状寸法：・() (mm) ・L-30×15×2.0(mm) 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 厚さ：() 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 (JISA9521 発泡プラスチック断熱材) 種類：() 厚さ：() 絶縁用シートに使用する材料 ・材料：() ・屋根保護防水密着工法又は屋根保護防水絶縁工法： ・ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上 ・ポリプロピレン、ポリエチレン等を平織りしたフラットヤーンクロス(70g/m ² 程度) ・屋根保護防水断熱工法： ・ポリプロピレン、ポリエチレン等を平織りしたフラットヤーンクロス(70g/m ² 程度) 保護コンクリート： ※軽量コンクリート(・1 種 ・2 種 気乾比重 t/m ³ ※「標仕」6.10.1 による) ・普通コンクリート 設計基準強度：・ N/mm ² ・1.8 N/mm ² スランプ：・ cm ・15 cm ・18 cm ・21 cm 立ち上り部の保護 ・乾式保護材使用 立ち上り部の保護の保護のれんが：()
・ 3.3.3 種別及び工程	・屋根保護防水絶縁工法(P1B 工法) ・B-1 ・B-2 ・屋根保護防水絶縁断熱工法(P1BI, T1BI 工法) ・BI-1 ・BI-2 ・屋根保護防水密着断熱工法(P2AI 工法) ・AI-1 ・AI-2 ・AI-3 ・屋根保護防水密着工法(P2A 工法) ・A-1 ・A-2 ・A-3 立ち上り部について ・保護コンクリート： ・適用する ・適用しない ・立ち上り部の工法：() ・屋根露出防水密着工法(M4C 工法) ・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4 ・仕上塗料： ・カラー ・シルバー ・ルーフィングシート類製造所の指定による ・屋根露出防水絶縁工法(M3D, POD 工法) ・D-1 ※D-2 ・仕上塗料： ・カラー ・シルバー ・ルーフィングシート類製造所の指定による ・屋根露出防水絶縁工法(PODI, M3BI, M4DI 工法) ・DI-1 ※DI-2 ・仕上塗料塗り：・(種類) ・使用量 kg/m ²) ・ルーフィング類製造所の指定による M3D, POD, PODI, M3DI, M4DI 工法採用時における脱気装置 種類：・() ・ルーフィング類製造所の指定による 設置数量：・() 個 ・ルーフィング類製造所の指定による 屋内防水密着工法(P1E, P2E 工法) ・E-1 ※E-2 保護層： ・設ける ・設けない
・ 3.3.5 保護層等の施工	平場の保護コンクリート ※軽量コンクリート ・普通コンクリート 厚さ：・ mm ・こて仕上げ、水下 80mm ・床タイل張り等の仕上げ、水下 60mm 立ち上り部の保護 ・乾式工法 ・れんが押え(目地幅：) ・モルタル押え(屋内等) ・コンクリート押え
4 節 改質アスファルトシート防水	
・ 3.4.2 材料	・改質アスファルトシート (JISA6013 改質アスファルトルーフィングシート) 種類：() 厚さ：() とする。 押入金物 材質：※アルミニウム製 ・() 形状、寸法：※L-30-15-2.0(mm) ・() 屋根露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 (JISA9521 発泡プラスチック断熱材) 種類：() 厚さ：()
・ 3.4.3 種別及び工程	・屋根露出防水密着工法 (M4AS 工法) ・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2 ・屋根露出防水絶縁工法 (M3AS, POAS 工法) ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3

令和 5 年 1 月 1 日改定	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所			工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事	設計年月日 令和 7 年 8 月	図面番号
	図面名称 特記仕様書 (I)			縮尺：A1	縮尺：A3	A-02
					工事番号 R ー	

		屋根露出防水絶縁断熱工法（M3AS1、M4AS1、P0AS1工法） ・ASI-T1　・ASI-J1 M4AS、M3AS、P0AS、M3ASI、M4ASI、P0ASI工法　脱気装置 種類：・（　　　　　）　・製造所の指定による 設置数量：・（　　　）個　・製造所の指定による 仕上塗料塗り：・（種類：　　　　　　、使用量：　　　kg/m2）　・製造所の指定による M3ASI、M4ASI、P0ASI工法　防湿層：・設置する　・設置しない
	5節　合成高分子系ルーフィングシート防水	
・	3.5.2 材料	ルーフィングシート（JISA6008規格品） 種類：（　　　　　）　厚さ：・（　　　）mm　・1.2mm（S-F1、SI-F1） ・2.0mm（S-F2（軽歩行仕様）、SI-F2（軽歩行仕様）） ・1.5mm（S-M1、S-M2、SI-M1、SI-M2、S-F2、SI-F2） 絶縁用シート及び可塑性移行防止用シート 材質：・（　　　　　）　・発泡ポリエチレンシート 固定金具 材質：（　　　　　）　寸法形状：（　　　　　） 押え金物：※製造所の指定による　・（　　　　　） 断熱工法に用いる断熱材：種類（　　　　　）　厚さ（　　　　　）
・	3.5.3 種別及び工程	POS、P0SI、S4S、S4SI工法における新規防水層 ・接着工法：・S-F1　・SI-F1　・S-F2（軽歩行仕様）　・SI-F2（軽歩行仕様） ・機械的固定工法：・S-M1　・SI-M1　・SI-M2、S-F2、SI-F2 POS、P0SI、S4S、S4SI工法採用時における場合の脱気装置 種類：・（　　　　　）　・製造所の指定による 設置数量：・（　　　）個　・製造所の指定による S3S、S3S1工法における新規防水層 ・S-F1　・SI-F1　・S-F2　・SI-F2 S-F1、M-F1の場合　仕上塗料塗り：（種類：　　　　　、使用量：　　　kg/m2） ・製造所の指定による S3S、S3S1工法採用時における脱気装置 種類：・（　　　　　）　・製造所の指定による 設置数量：　・（　　　）個　・製造所の指定による　S-M2の場合 仕上塗料塗り：・（種類：　　　　　、使用量：　　　kg/m2） ・製造所の指定による M4S、M4SI工法における新規防水層 ・S-M1　・SI-M1　・S-M2　・SI-M2 SI-M1、SI-M2の場合　防湿用フィルムの設置：・有　・無 SI-M2の場合　仕上塗料塗り：・（種類：　　　　　、使用量：　　　kg/m2） ・製造所の指定による P1S工法　保護モルタル塗り：・厚さ（　　　　　）
・	3.5.4 施工	・接着工法　プレキャストコンクリート下地の目地処理：（　　　　　） ・S-F1、SI-F1におけるプレキャストコンクリート下地の入隅部の増張り： （　　　　　） ・S-C1におけるALCパネル下地とプレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り： （　　　　　） ・一般部のルーフィングシートの張付け　風圧力に対応した工法：（　　　　　） 保護層の施工 立上り部の保護モルタル塗厚：・　mm　※7mm
※	6節　塗膜防水	
※	4.6.3 種別及び工程	P0X、L4X工法における新規防水層 接着工法：○X-2　・X-2H 絶縁工法：・X-1　・X-1H 仕上塗料塗り：・（種類：　　　　　、使用量：　　　kg/m2） ・製造所の指定による P0X、L4X工法採用時における脱気装置について 種類：・（　　　　　）　・製造所の指定による 設置数量：・（　　　）個　・製造所の指定による P1Y、P2Y1工法における新規防水層 ・Y-2 保護層：・保護コンクリート　・保護モルタル
※	防水保証	防水工事の施工は防水専門業者による責任施工とする。 保証書は施工業者との連名で提出する。 アスファルト防水：※10年　・15年 改質アスファルト防水：※10年　・15年 合成高分子系ルーフィングシート防水※10年　・15年 塗膜防水：※10年　・15年
	漏水試験	試験箇所：・陸屋根　・便所　浴室　・受水槽　・防火水槽 ※48時間水張り試験とする
※	7節　シーリング	
※	3.7.2 材料	シーリング材 種類：※（MS-2/PU-2/）　・〔表3.7.1〕による。 施工箇所：壁取り合い
※	3.7.3 目地寸法	シーリング材の目地寸法 ○(20*20)とする。
・	3.7.7 ブリッジ工法	・ボンドブレイカー張り　・エッジング材張り
・	3.7.8 シーリング材の試験	接着性試験：※簡易接着性試験　・引張接着性試験
※	防水保証	シーリング保証：※5年　・10年
※	8節　とい	
※	3.8.2 材料	材種 縦管等：・配管用鋼管（白管）　○硬質ポリ塩化ビニル管（VP）　・（　　　　　） とい、○硬質塩化ビニル　・表面処理鋼板　・ステンレス鋼板 表面処理鋼板　規格等： ・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3318（塗装溶融亜鉛－5％アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS G 3322（塗装溶融55％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS K 6744（ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯） ・耐酸被覆鋼 ・（　　　　　）

		表面処理鋼板　塗膜：（表面：　　　　　　裏面：　　　　　） 耐酸被覆鋼板　材質等：（　　　　　） 防露材　ホルムアルデヒド放散量：・　　　　　　・F☆☆☆☆
・	3.8.3 工法	既存といその他撤去及び降雨等に対する養生方法：（　　　　　） 鋼管製といの防露巻き：・（　　　）　・表3.8.4 たてどい受金物の取付け：（　　　　　） ルーフトレンの取付け：※モルタル充填する　・（　　　　　）
	9節　アルミニウム製笠木	
・	3.9.2 材料	アルミニウム製笠木： ・オープン形式（・250形　・300形　・350形　・板材折曲げ形） ・シール形式板材折曲げ形 板材折曲げ形：（本体幅：　　　mm　板厚：・（　　　mm）　・2.0mm） 表面処理：・AB-1種　・BB-1種　・（　　　　　）
・	3.9.3 工法	既存の笠木等の撤去及び新規アルミニウム製笠木の下地の補修：（　　　　　） 板材折曲げ形　取付方法：（　　　　　） 笠木の固定金具　建築基準法に基づく風圧力に対応した工法：（　　　　　）

第4章 外壁改修工事						
2節 コンクリート打放し仕上げ外壁の改修						
ひび割れ部改修						
※	4.2.5 樹脂注入工法	※自動式低圧 ・ 手動式 ・ 機械式				
		材料	ひび割れの幅 (mm)	延べ長さ (m)		
		・ 硬質形エポキシ樹脂 ・ 軟質形エポキシ樹脂	0.2～0.3未満			
			0.3～0.5未満			
			0.5～1.0未満			
		注入口の間隔 (mm)	※200～300 ・ 200程度 ・ 300程度			
		注入量 (ml/m)	()			
		コアの抜取り検査 ・ 行う ※ 行わない				
		※	4.2.6 Uカットシール材充填工法	材料	ひび割れの幅 (mm)	延べ長さ (m)
				・ 可とう性エポキシ樹脂 ※シーリング材 ・ ポリマーセメントモルタル	0.2～0.3未満	
0.3～0.5未満						
0.5～1.0未満						
1.0～1.5未満						
1.5～2.0未満						
※	4.2.7 シール工法			材料	ひび割れの幅 (mm)	延べ長さ (m)
				※パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	0.2未満	
※	4.2.8 充填工法	材料	平均深さ (mm)	延べ面積 (㎡)		
		・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル	30～40未満			
			20～30未満			
			15～20未満			
			10～15未満			
			5～10未満			

ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修				
※	4.3.6 樹脂注入工法	※自動式低圧 ・手動式 ・機械式		
		材料	ひび割れの幅 (mm)	延べ面積 (㎡)
		※硬質形エポキシ樹脂 ・軟質形エポキシ樹脂	0.2～0.3未満	655㎡
			0.3～0.5未満	
			0.5～1.0未満	
		注入口の間隔 (mm)：・200程度 ・300程度		
		注入量 (ml/m)：()		
		コアの抜取り検査：・行う ※ 行わない		
※	4.3.7 Uカットシール材充填工法	材料	ひび割れの幅 (mm)	延べ長さ (m)
		・可とう性エポキシ樹脂 ・シーリング材 ・ポリマーセメントモルタル	0.2～0.3未満	410m
			0.3～0.5未満	
			0.5～1.0未満	
			1.0～1.5未満	
			1.5～2.0未満	
※	4.3.8 シール工法	材料	ひび割れの幅 (mm)	延べ長さ (m)
		※パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	0.2未満	
※	4.3.9 充填工法	材料	平均深さ (mm)	延べ面積 (㎡)
		※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル	30～40未満	168㎡
			20～30未満	
			15～20未満	
			10～15未満	
			5～10未満	
※	4.3.10 モルタル塗替え工法	材料	塗厚 (mm)	延べ面積 (㎡)
		※表4.4.1による	25以下	450㎡

工法	1箇所の面積	浮き台（mm）	アンカーピン（本/㎡）		注入口（箇/㎡）		延べ面積（㎡）
			一般部	指定部	一般部	指定部	
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満		※16	※25	――	――	
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下	※13	※20	※12	※20	
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー	0.25以上		※13	※20	※12	※20	

・注入工法									
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満			※9	※16	――	――		
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下		※9	※16	※9	※16		
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を超える		※9	※16	※9	※16		

4節　タイル張り仕上げ外壁の改修									
4.4.2　ひび割れ部改修									
・タイル張仕上げを撤去する場合									
種類	寸法及（h×w×t）	役物の有無	工法		枚数	使用場所	色		
磁器タイル	×　×		・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法				・特注色 ・標準色		

・タイル張仕上げをしない場合									
※自動式低圧　・手動式　・機械式									
材料		ひび割れの幅（mm）		延べ長さ（m）					
※硬質形エポキシ樹脂		0.2～0.3未満							
・軟質形エポキシ樹脂		0.3～0.5未満							
		0.5～1.0未満							
注入口の間隔（mm）		※200～300　・200程度　・300程度							
注入量（ml/m）		（　　　）							

4.4.3　欠損部改修									
種類	寸法及（h×w×t）	役物の有無	工法		枚数	使用場所	色		
磁器タイル	×　×		・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法				・特注色 ・標準色		

4.4.4　浮き部改修									
・タイル張仕上げを撤去する場合									
種類	寸法及（h×w×t）	役物の有無	工法		枚数	使用場所	色		
磁器タイル	×　×		・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法				・特注色 ・標準色		

・タイル張仕上げをしない場合									
工法		1箇所の面積	浮き台（mm）	アンカーピン（本/㎡）		注入口（箇/㎡）		延べ面積（㎡）	
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満			一般部	指定部	一般部	指定部	一般部	指定部
				※16	※25	――	――		
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下		※13	※20	※12	※20		
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上			※13	※20	※12	※20		
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	0.25未満			※9	※16	――	――		
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	0.25以上	1.0以下		※9	※16	※9	※16		
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	0.25以上	1.0を超える		※9	※16	※9	※16		

・4.4.8　タイル張替え工法	伸縮調整目地位置：※表4.4.2による　・図示による	
5節　仕上塗材仕上げ外壁等の改修		

・4.5.2 材料	※薄付け仕上塗材	種類	呼び名	仕上げの形状	工法
		・外装薄塗材Si	・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状	吹付け ローラー塗り
				・砂壁状　・ゆず肌状　・ゆず肌状　・さざ波状	吹付け ローラー塗り
		・可とう形外装薄塗材E	・防水形外装薄塗材E	・平たん状　・凹凸状　・ゆず肌状　・さざ波状	こて塗り ローラー塗り
				・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状	吹付け ローラー塗り
		・可とう形外装薄塗材E	・防水形外装薄塗材E	・着色素材　・砂壁状　・砂壁状　・ゆず肌状	・吹付け こて塗り
				・平たん状　・凹凸状　・ゆず肌状　・さざ波状	こて塗り ローラー塗り
		・可とう形外装薄塗材E	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状　・さざ波状　・ゆず肌状　・凹凸状	ローラー塗り 吹付け
				・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状	吹付け ローラー塗り
		・可とう形外装薄塗材E	・防水形外装薄塗材E	・平たん状　・凹凸状　・ゆず肌状　・さざ波状	こて塗り ローラー塗り
				・砂壁状　・ゆず肌状　・さざ波状	吹付け ローラー塗り
		・可とう形外装薄塗材E	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状　・さざ波状　・ゆず肌状　・凹凸状	ローラー塗り 吹付け

・厚付け仕上塗材	※復層仕上塗材	・外装薄塗材S	・砂壁状　・吹付け	吹付け
		・外装厚塗材C	・吹放し　・凸部処理　・平たん状　・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし	吹付け こて塗り
		・外装厚塗材Si	・吹放し　・凸部処理　・平たん状　・凹凸状　・ひき起こし	吹付け こて塗り ローラー塗り
		・復層塗材CE	・凸部処理　・凹凸状	吹付け
		・復層塗材RE	・ゆず肌状	ローラー塗り
		・復層塗材Si	・可とう形復層塗材CE	・凸部処理　・凹凸状
		・可とう形復層塗材E	・ゆず肌状	ローラー塗り
		・可とう形改修塗材E	・可とう形改修塗材RE	・平たん状　・さざ波状
		・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状	吹付け
		・可とう形改修塗材E	・可とう形改修塗材RE	・平たん状　・さざ波状
		・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状	吹付け
		・可とう形改修塗材E	・可とう形改修塗材RE	・平たん状　・さざ波状

・4.5.4　既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	塗膜の劣化部の除去工法： ※サンダー工法（処理範囲：・既存仕上面全体　・図示による　・（　　　）） ※高圧水洗工法（処理範囲：・既存仕上面全体　・図示による　・（　　　）） ※塗膜剥離剤工法（処理範囲：・既存仕上面全体　・図示による　・（　　　）） ・水洗い工法 下地調整材：※下地調整塗材　・ポリマーセメントモルタル　・（　　　）
6節　マスキング塗材塗り仕上げ外壁等の改修	
4.6　マスキング塗材塗り仕上げ	種別：・A種　・B種
7節　外壁用塗膜防水材による改修	
4.7.2　材料	工法：・吹付け（仕上げの形状：・凸凹状　・凸部処理） ・ローラー塗（仕上げの形状：ゆず肌状　・さざ波状） 吹付工法の模様材の種類：（　　　　　） 仕上塗料の種類：（　　　　　） 仕上塗料の耐水性：（　　　　　）
4.7.3　施工一般	下地準動緩衝材：・要　不要

第5章 建具改修工事																											
5.1.3 改修工法	・かぶせ工法 ・撤去工法 新規建具周囲の補修方法及び範囲は図示による。																										
5.1.5 見本の製作	建具見本の製作：※要																										
5.2 アルミ製建具	<table><tr><th>性能項目</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠の見込み寸法 (mm)</th></tr><tr><td>種別</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・A種</td><td>※S-4</td><td rowspan="3">※A-3</td><td rowspan="3">※W-4</td><td>※70 ・ 100</td></tr><tr><td>・B種</td><td>※S-5</td><td>※70 ・ 100</td></tr><tr><td>・C種</td><td>※S-6</td><td>※A-4 ※W-5 ※100</td></tr></table> <p>(枠の見込み寸法は建具表を優先する)</p> <p>表面処理 ・A-1種 ・A-2種 ※B-1種 (屋外) ・B-2種 ※C-1種 (屋内) ・C-2種 ・D種 着色：※標準色 ・着色A種 (自然発色) ・特注色 ・焼付 (※アクリル系 ・ウレタン系 ・フッ素系) 特殊サッシ：・防音 (等級：) ・断熱 (等級：) ・耐震 結露水の処置方法：()</p>	性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法 (mm)	種別					・A種	※S-4	※A-3	※W-4	※70 ・ 100	・B種	※S-5	※70 ・ 100	・C種	※S-6	※A-4 ※W-5 ※100					
性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法 (mm)																							
種別																											
・A種	※S-4	※A-3	※W-4	※70 ・ 100																							
・B種	※S-5			※70 ・ 100																							
・C種	※S-6			※A-4 ※W-5 ※100																							
5.2.3(5) 網戸	使用方法：※外面取まりの可動式 網の種類：※合成樹脂 ・ガラス繊維入り合成樹脂 ・ステンレス																										
5.3 樹脂製建具	<table><tr><th>性能項目</th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠の見込み寸法 (mm)</th></tr><tr><td>種別</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・A種</td><td>※S-4</td><td rowspan="3">※A-4</td><td>※W-4</td><td>・70 ・100 ・ ()</td></tr><tr><td>・B種</td><td>※S-5</td><td rowspan="2">※W-5</td><td>・70 ・100 ・ ()</td></tr><tr><td>・C種</td><td>※S-6</td><td>・70 ・100 ・ ()</td></tr></table> <p>(枠の見込み寸法は建具表を優先する)</p> <p>特殊サッシ：・防音 (等級：・T-1 ・T-2) ・断熱 (等級：・H-4 H-5 H-6 H-7 H-8 H-9) ・日射熱取得性 (等級：) ガラス：※複層ガラス ・ () 表面色：・標準色 ・特注色</p>	性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法 (mm)	種別					・A種	※S-4	※A-4	※W-4	・70 ・100 ・ ()	・B種	※S-5	※W-5	・70 ・100 ・ ()	・C種	※S-6	・70 ・100 ・ ()				
性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法 (mm)																							
種別																											
・A種	※S-4	※A-4	※W-4	・70 ・100 ・ ()																							
・B種	※S-5		※W-5	・70 ・100 ・ ()																							
・C種	※S-6			・70 ・100 ・ ()																							
5.4 鋼製建具	<p>・簡易気密型ドアセットの性能値： ※表5.4.1による。 鋼板：※JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 Z12 又は F12 ・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量は Y08 鋼板翅の厚さ ・片開き、親子及び両開き戸の1枚の戸の開口有効幅 950mm 以上又は開口有効高さ 2400mm を超える場合、下表及び表5.4.2 以上の厚さとする。</p> <table><tr><th colspan="2">区分</th><th>使用場所</th><th>厚さ</th></tr><tr><td rowspan="3">窓 出入口</td><td>枠類</td><td>外部の下枠</td><td>※2.3 ・</td></tr><tr><td rowspan="2">枠類</td><td>丁番及び枠付のビレットヒンジで吊る</td><td>※2.3 ・</td></tr><tr><td>外部に面するスイングドアの場合</td><td>※2.0 ・</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>くつづり</td><td></td></tr></table>					区分		使用場所	厚さ	窓 出入口	枠類	外部の下枠	※2.3 ・	枠類	丁番及び枠付のビレットヒンジで吊る	※2.3 ・	外部に面するスイングドアの場合	※2.0 ・			くつづり						
区分		使用場所	厚さ																								
窓 出入口	枠類	外部の下枠	※2.3 ・																								
	枠類	丁番及び枠付のビレットヒンジで吊る	※2.3 ・																								
		外部に面するスイングドアの場合	※2.0 ・																								
		くつづり																									
5.5 鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセット：・要 材料：※鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板																										
5.6 ステンレス製建具	種類：・ SUS304 ・ SUS430J1L ・ SUS443J1 ・ () 表面仕上げ：※H L ・																										
5.7 木製建具	建具材の加工及び組立時の含水率：・A種 ・B種 フラッシュ戸の材料 表面材の種類：・合板の日本農林規格の「普通合板の規格」																										

つや有合成樹脂 エマルションペ イント塗り (EP- G)	下地			種別	下地調整又は素地ごしらえ	塗装種別
	※コンクリート面	新規	・A種	※B種	・A種	※B種・C種
		塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種
	※押出成形セメント板面	塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種
	※モルタル面	新規	・A種	※B種	・A種	※B種・C種
	※プaster面	塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種
	※せっこうボード面	新規	・A種	・B種	・A種	※B種・C種
	※その他 ボード等の面	塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種
	※木面	新規	(・A種 (透明塗料) ・B種 (不透明塗料))		※A種	・B種・C種
		塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種
※鉄面	新規	・A種	・B種	※C種	※A種・B種・C種	
	塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種	
※重鉛メッキ面	新規	・A種	・B種	※A種	・B種・C種	
	塗替え	・RA種	※RB種・RC種	・A種	※B種・C種	

※	7.10 合成樹脂エマル ジョンペイント 塗り(EP)							
	下地	種別	下地調整	塗装種別				
	※コンクリート面	新規	・A種 ※B種	・A種 ※B種 ・C種				
		塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
	※押出成形セメント板面	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
		新規	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
	※モルタル面	新規	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
		塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
	※プaster面	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
		新規	・A種 ・B種	・A種 ※B種 ・C種				
	※石こうボード面	新規	・A種 ・B種	・A種 ※B種 ・C種				
		塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種				
※その他ボード等の面	塗替え	・RA種 ※RB種 ・RC種	・A種 ※B種 ・C種					

第8章 耐震改修工事	
※8.1.2(1) 鉄筋工事	※JIS G 3112 ・SD295(D16以下) ・SD295B(D16以下) ・SD345(D19以上) ・SD390(D 以上)
※8.2.2 溶接金網	※JIS G 3551 ※φ6φ100 ・()
※8.3.4(1) 継手及び定着	※重ね継手 ※ガス圧接継手 (適用箇所: ※柱及び梁の主筋 (D19以上) ・()) ・特殊な鉄筋継手 (・機械式継手 ・溶接継手)
8.3.4(2)	継手位置: 図示による
8.3.4(3)	柱及び梁の主筋並びに耐力壁の重ね継手長さ: 図示による
8.3.4(4)	(1)柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ: 図示による (2)上記以外の鉄筋の定着長さ: 図示による 改修標仕に規定されている「表8.3.2 鉄筋の重ね継手長さ」及び「表8.3.4 鉄筋の定着長さ」のL1及びL2のうち40dに満たないものは、40dと読み替えるものとする。(但し、保有耐力計算等を行い、改修標仕の規定による定着長さで満足することを確認したものについては、この限りでない。)
※8.3.8(10) 圧接完了後の試験	※超音波探傷試験 ・引張り試験
8.3.4(1) あと施工アンカー	※接着系アンカー: ※カプセル方式の回転打撃式 ・() 接着剤: ※有機系 ・無機系 金属系アンカー: ※本体打込み式改良型 ・()
8.2.4(3)	アンカー筋の径及び埋込み長さ: 図示による アンカー筋の新設壁内への定着長さ: 図示による
8.2.4(4)	性能確認試験: ※行わない 行う 施工確認試験: ※行う (確認試験荷重: 図示による) ・行わない
埋込み配管等の 探査	範囲: ※あと施工アンカー部分全て ・図示 方法: ※鉄筋探知機により探査し、鉄筋・配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる
※8.1.3 コンクリートの 種類	※レディミクストコンクリート (※I類 ・II類) ・軽量コンクリート (※I類 ・2種 気乾比重: t/m3) ※普通コンクリート: ・Fc18 ・Fc21 ・Fc24 ・Fc27 ・() ・軽量コンクリート: ・Fc18 ・Fc21 ・Fc24 ・() ・無筋コンクリート: ※Fc18 ・その他: ()
※8.1.4 コンクリートの 品質	構造体コンクリート強度は、設計基準強度以上とし、工事現場で採取し、養生された供試体の圧縮強度を基に推定する。 コンクリート強度の推定値の判定は、8節による。
※気乾単位容積質量	() t/m3程度
※8.1.4(2) ワーカビリティ ー及びスランプ	柱、梁、スラブ、壁 (※18cm ・) 基礎、基礎梁、土間スラブ (・15cm ※18cm) 無筋コンクリート (※18cm ・) 軽量コンクリート (※21cm以下 ・)
※8.1.4(3) 構造体コンクリ ートの仕上り	コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差は、表8.1.3による。 コンクリート打放し仕上げ 表8.1.4による (・A種 ・B種 ・C種)
8.2.5 コンクリートの	

令和5年1月1日改定	

材料及び割合												
※ 8.2.5(4) 混和材料	※AE剤又はAE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・膨張材 (種類:) 調合は、コンクリートの所要の品質が得られる範囲内で、単位水量及び単位セメント量をできるだけ小さくし、また単位粗骨材量をできるだけ大きくする。 所要スランプ: ・ cm (18cm以下) 化学混和材 空気量 4%以下 水セメント比 55%以下											
※ 8.2.5(5)(a) 調合管理強度及び調合強度	①調合管理強度は、設計基準強度(Fc)に、表 8.2.4 の構造体強度補正値(S)を加えた値以上、かつ、品質が 9 節及び 10 節以降の関係を 9 節の規定を満たすものとする。 ②構造体強度補正値(S)は、表 8.2.4 により、セメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢 28 日までの期間の予想平均気温に応じて定める。											
表 8.2.4 構造体強度補正値(S)の標準値												
セメントの種類						コンクリートの打込みから材齢 28 日までの期間 の予想平均気温θの範囲(℃)						
普通ポルトランドセメント						8 ≦ θ			0 ≦ θ < 8			
高炉セメント A 種 シリカセメント A 種 フライアッシュセメント A 種												
早強ポルトランドセメント						0 ≦ θ < 5			5 ≦ θ			
中熱ポルトランドセメント						0 ≦ θ < 11			11 ≦ θ			
低熱ポルトランドセメント						0 ≦ θ < 14			14 ≦ θ			
高炉セメント B 種						0 ≦ θ < 13			13 ≦ θ			
フライアッシュセメント B 種						0 ≦ θ < 9			9 ≦ θ			
普通エコセメント						0 ≦ θ < 6			6 ≦ θ			
構造体強度補正値(S) (N/mm ²)						6			3			
※ 月平均気温と補正値	「構造体強度補正値 (S)」適用期間											
大阪府における旬別平均気温 (単位: °C)												
月別	4			5			6			7		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	13.4	15.3	16.9	19.0	19.7	21.4	22.6	23.6	24.8	26.4	27.7	28.9
構造体強度補正値 [N/mm ²]	3									6		
	8			9			10					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
大阪	29.5	29.3	28.4	27.0	25.4	23.1	21.5	19.6	17.5			
構造体強度補正値 [N/mm ²]	6						3					
※大阪府の気象庁観測地点における 1991 年～2020 年までの旬別平均気温の平均値 大阪府における基準日から 28 日間の予想平均気温												
	10			11			12			1		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	19.8	18.1	16.0	14.0	12.2	10.4	8.9	7.7	6.9	6.3	6.0	6.0
構造体強度補正値 [N/mm ²]	3									6		
月別	2			3			4					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
大阪	6.6	7.6	8.7	9.7	11.2	12.9	15.0	16.7	18.4			
構造体強度補正値 [N/mm ²]	6			3								
※大阪府の気象庁観測地点における 1991 年～2020 年までの日別平均気温の平均値をもとに、各旬におけるコンクリートの打込日をそれぞれ 1 日、11 日、21 日を基準日と設定して、コンクリートの打込日から 28 日間の平均気温 (注) 1) コンクリート打設時温度が上表平均気温より大きく変化する場合は、適宜標仕に基づく補正を行うこと。 2) 日平均気温の平均値が 25℃を超える期間にコンクリートを打ち込む場合は、12 節による。 (c) 調合強度は、調合管理強度に、強度のばらつきを表す標準偏差に許容不良率に応じた正規偏差を乗じた値を加えたものとする。												
(注) 1) コンクリート打設時温度が上表平均気温より大きく変化する場合は、適宜標仕に基づく補正を行うこと。 2) 日平均気温の平均値が 25℃を超える期間にコンクリートを打ち込む場合は、10 節による。 (iii)調合強度は、調合管理強度に、強度のばらつきを表す標準偏差に許容不良率に応じた正規偏差を乗じた値を加えたものとする。												
※ 8.2.5(5)(b) 割合条件	単位水量 (※185kg/m ³ 以下 ・) 単位セメント量 (※270kg/m ³ 以上 ・) 水セメント比 (※65%以下 ・) 空気量 (※4.5%以下 ・) 塩化物量 コンクリートに含まれる塩化物付与量で 0.30kg/m ³ 以下。 コンクリートは、アルカリ骨材反応を生じるおそれのないものとする。 調合強度の確認は、原則として材齢 28 日の圧縮強度とする。											
※ 8.5.3 レディミクスト コンクリート製造及び発注	(4)レディミクストコンクリートの呼び強度の強度値は、8.2.5(e)(1)で定める調合管理強度以上とする。 (5)呼び強度を保证する材齢は、28 日とする。											
※ 8.7.8 型枠工事	コンクリート打放し仕上げの打増し厚さ: ※15mm ・ (mm) ひび割れ誘発面比: ※図示による											
※ 8.8.3 コンクリートの 強度試験	(1)試験の目的に応じた 1 回の試験、供試体の養生方法及び材齢は、表 8.8.2 による。 なお、供試体の養生方法及び養生温度は次による。 (7)養生方法は、JIS A 1132(コンクリートの強度試験用供試体の作り方)に基づき 20 ± 2℃の水中養生とする。 (4)工事現場における養生は水中養生又は封かん養生とし、養生温度はコンクリートを打ち込んだ構造体に可能な限り近い条件とする。											

なお、供試体の保管場所は、直射日光の当たらない屋外とする。 (2)供試体は、工事現場において、JIS A 1132によって製作し、それぞれ試験の目的に応じた養生を行う。 なお、供試体の脱型は、コンクリートを詰め終わってから16時間以上3日間以内に行う。 ただし、工事現場における封かん養生を行う場合はこの限りでない。 (3)コンクリートの強度試験の方法は、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法) による。 (4)圧縮強度試験 (i) 試験方法は、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法) による。 (ii) 1回の試験における圧縮強度の平均値 (X) は、8.8.1式による。 X=X1+X2+X3・・・(8.8.1)式 3 X : 圧縮強度の平均値 (N/mm2) X1、X2、X3: 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度 (N/mm2) (iii) 3回の試験における圧縮強度の総平均値 (X) は、8.8.2式による。 X=X1+X2+X3・・・(8.8.2)式 3 X : 3回の試験における圧縮強度の平均値 (N/mm2) X1 : 1回目の試験における圧縮強度の平均値 (N/mm2) X2 : 2回目の試験における圧縮強度の平均値 (N/mm2) X3 : 3回目の試験における圧縮強度の平均値 (N/mm2) (5)標仕による試験体のほか、建築基準法に基づく建築主事 特定工程検査用供試体(材齢7日)も採取のこと。 表8.8.2 1回の試験、供試体の養生方法及び材齢		試験の目的 調合管理強度の判定 型枠取し時期の決定 構造体コンクリート強度の判定	
1回の試験	頻度	打込み日ごと、打ち込み工区ごとかつ、150m以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行う。	打込み日ごと、打ち込み工区ごと、かつ、150m以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行う。
	試験体の個数	3	
養生方法	試験体の作製方法	1台の運搬車から採取した試料で同時に3個の供試体を作製する。	適切な間隔をあけた3台の運搬車から、それぞれ試料を採取し、1台につき1個 (合計3個) の供試体を作製する。
	標準養生	工事現場における水中養生または封かん養生	工事現場における水中養生 工事現場における封かん養生 標準養生
材齢		28日	必要に応じて定める 28日 28日及び28日を 超え91日以内 28日
(注) 養生方法は、8.8.3(1)による。			
※8.8.4 調合管理強度の 管理試験	試験項目	試験の目的	養生方法 材齢 試験回数
※8.8.5 構造体コンクリ ート強度の推定 試験	構造体のコン クリート強度 推定試験	構造体コンクリート 材齢7日 圧縮強度推定用	工事現場における水中養生 7日 (a)による
	試験項目	試験の目的	養生方法 材齢 試験回数
(注) 養生方法は、8.8.3(1)による。			
※8.8.6 細骨材の塩分含有量	アルカリ骨材反応抑制対策	生コン GBRC 試験 試験は打設前に1回実施する。 但し、5階を超える毎に1回増すこととする。 供試体は生コン工場にて作成し、公的機関にて試験を行うこと。	材料及び割合 構造体強度補正値(S) : ※ 6N/mm2 ・(N/mm2)
※8.10 暑中コンクリート	暑中コンクリート	(3)設計強度及びスランプ 設計基準強度: 18N/mm2 ・(N/mm2) スランプ: 15cm ・18cm ・(cm)	
※8.11.1 無筋コンクリート	無筋コンクリート	建築基準法に基づく指定資格検定機関等に関する省令第59条第23号による指定性能評価機関 ((株) 日本鉄骨評価センター、(株) 全国鉄骨評価機構) で認定された工場で、監督職員が承諾するもの。 ・Sグレード ・Hグレード ・Mグレード ・Rグレード ・Jグレード	
※8.15 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場	※適用する ・適用しない	
※8.16 施工管理技術者	施工管理技術者	高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの緩距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※日本建築学会「鋼構造設計基準」による ・()	
※8.13.2 工作図	工作図		
※8.17 仮組	仮組		
※8.18 梁等の貫通孔	梁等の貫通孔	・図示	

※	8.2.8 鋼材	規格：※JIS 規格品及び建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材 材種及び使用箇所						
	規格名称	鋼材名	柱	通しダイヤ	内ダイヤ	大梁	ブレース	小梁他
	建築構造用圧延鋼材	・SN400A ・SN400B ・SN490B ・SN400C ・SN490C						
	中間成形角型鋼管	・BCR295 ・BCP235 ・BCP325						
	建築構造用炭素鋼管	・STKN400W ・STKN400B ・STKN490B						
	一般構造用圧延鋼材	・STKR400 ・STKR490						
	一般構造用炭素鋼管	・STK400 ・STK490						
	一般構造用軽量鋼	・SSC400						
※	8.2.9 高力ボルト	※トルシヤ型高力ボルト ・JISの高力ボルト ・溶融亜鉛メッキ高力ボルト ※径：図示による。						
※	8.2.10 溶接材料	※表 8.2.9 による						
※	8.15.7 溶接施工	・スカーラップ工法 ・ハンスカーラップ工法（スカーラップの形状 ※図示による ・（ ））						
※	8.15.12 溶接部の試験	※超音波探傷試験 ・（ ）						
※	8.17.2 錆止塗装	※鋼製スリプで鉄骨に溶接されたものの内面：※表 7.3.1 A 種 ・（ ） ・耐火被覆材の接着する面：						
※	8.18.2 耐火被覆の種類等	・ラス張りモルタル塗り ・耐火材吹付け ・耐火板張り ・耐火材巻付け						
※	8.18.3 耐火被覆の性能、品質等	・耐火性能（ ）						
※	アンカーボルト等の設置	・建方用アンカーボルト ・構造用アンカーボルト ・アンカーボルトの保持及び埋込み工法（建方用）： ・A 種 ※B 種 ・C 種						
※	継手		柱	梁				
		フランジ	・高力ボルト ・現場溶接	・高力ボルト ・現場溶接				
		ウェブ	・高力ボルト ・現場溶接	・高力ボルト ・現場溶接				
※	鉄骨工作標準図	※図示による ・						
※	既存部分の撤去	撤去範囲： ※図示による ・						
※	8. 20.5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	・プラスト処理 ・リン酸塩処理 ・（ ）						
※	8.21 現場打鉄筋コンクリート壁の増設工事	※図示による						
※	8.21.3 既存部分の処理	適合範囲： 既存コンクリートとの打継ぎ面 既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充填部の接合面 目荒らしの範囲： ※打継ぎ面又は接合面全面の 3/4 以上 ・柱、梁 打継ぎ面又は接合面全面の 15～30％程度 ・壁 打継ぎ面又は接合面全面の 10～15％程度 目荒らしの程度 ※平均深さ約 5mm（最大深さ 10～15mm）程度の凸凹部を施す。 ・平均深さ約 2～5mm（最大深さ 5～7mm）程度の凹部を施す。						
※	8.22 鉄骨ブレースの設置工事	※図示による						
※	8.23 柱補強工事	※図示による						
※	8.23.5 溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻工法	※図示による						
※	8.23.6 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法	※図示による						
※	8.24.6 連続繊維補強工事施工	※図示による						
※	8.25 耐震スリット新設工事	※図示による ※小口怪コア抜きによる						
※	8.28.2 既存杭の撤去等	(1)撤去範囲及び撤去方法：・図示による ・（ ） (3)杭頭等の処理：・図示による ・（ ） (4)補強：・図示による ・（ ） (5)健全性を確認する試験：・図示による ・（ ）						
※	既存部分の撤去	既存仕上げ及び躯体の撤去範囲： ※図示による ・						
※	撤去工法	低騒音、低振動による工法とする。 既存取合部、ハヅリ箇所は予めカッターにて切り込んでおくこと。 モルタル等撤去部材で周囲に損傷を与える恐れのある場合は、図示なきもカッター切りを						

※8.2.9 高力ボルト	※トルシア型高力ボルト ・JISの高力ボルト ・溶融亜鉛メッキ高力ボルト ※図示による。	
※8.2.10 溶接材料	※図示による	
※8.15.7 溶接施工	・スカーラップ工法 ・ハンスカーラップ工法 (スカーラップの形状 ※図示による ・())	
※8.15.12 溶接部の試験	※超音波探傷試験 ・()	
※8.17.2 錆止塗装	※鋼製スリプで鉄骨に溶接されたものの内面: ※表7.3.1 A種 ・() ・耐火被覆材の接着する面:	
※8.18.2 耐火被覆の種類 等	・ラス張りモルタル塗り ・耐火材吹付け ・耐火板張り ・耐火材巻付け	
※8.18.3 耐火被覆の性能、品質等	・耐火性能 ()	
※アンカーボルト 等の設置	・建方用アンカーボルト ・構造用アンカーボルト ・アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (建方用): ・A種 ※B種 ・C種	
※継手	柱 梁 フランジ ・高力ボルト ・現場溶接 ・高力ボルト ・現場溶接 ウェブ ・高力ボルト ・現場溶接 ・高力ボルト ・現場溶接	
※鉄骨工作標準図	※図示による	
※既存部分の撤去	撤去範囲: ※図示による	
※8.20.5 溶融亜鉛めっき 高力ボルト接合	・ブラスト処理 ・リン酸塩処理 ・()	
※8.21 現場打鉄筋コン クリート壁の増 設工事	※図示による	
※8.21.3 既存部分の処理	適合範囲: 既存コンクリートとの打継ぎ面 既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充填部の接合面 目荒らしの範囲: ※打継ぎ面又は接合面全面の3/4以上 ・柱、梁 打継ぎ面又は接合面全面の15～30%程度 ・壁 打継ぎ面又は接合面全面の10～15%程度 目荒らしの程度 ※平均深さ約5mm (最大深さ10～15mm) 程度の凸凹部を施す。 ・平均深さ約2～5mm (最大深さ5～7mm) 程度の凹部を施す。	
※8.22 鉄骨ブレースの 設置工事	※図示による	
※8.23 柱補強工事	※図示による	
※8.23.5 溶接金網巻き及び 溶接閉鎖フープ 巻工法	※図示による	
※8.23.6 鋼板巻き工法及び 帯板巻き付け工 法	※図示による	
※8.24.6 連続繊維補強工 事施工	※図示による	
※8.25 耐震スリット新 設工事	※図示による ※小口径コア抜きによる	
※8.28.2 既存杭の撤去等	(1)撤去範囲及び撤去方法: ・図示による ・() (3)杭頭等の処理: ・図示による ・() (4)補強: ・図示による ・() (5)健全性を確認する試験: ・図示による ・()	
※既存部分の撤去	既存仕上げ及び躯体の撤去範囲: ※図示による	
※撤去工法	低騒音、低振動による工法とする。 既存取合部、ハツリ箇所は予めカッターにて切り込んでおくこと。 モルタル等撤去部材で周囲に損傷を与える恐れのある場合は、図示なきもカッター切り等	

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所	工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事	設計年月日 令和7年8月	図面番号
	図面名称 特記仕様書 (4)	縮尺: A1 縮尺: A3	工事番号 R -
			A-05

		行うこと。
※	あと施工アンカーの穿孔	<p>低騒音低振動工法とする。</p> <p>ハイブリッドドリル（日本ヘルティ）、ミストドリル（マキタ）、ソノドリル（多賀電気）又は同等以上</p> <p>※穿孔前にあらかじめ探査機により探査し、配管等の位置の掘出しを行うこと。</p>

第9章 環境配慮改修工事		
※	9.1 石鈎含有材除去 工事	別紙「特記仕様書（石鈎含有建材の除去及び処理）」による。

第10章 土工事 (標仕 第3章)		第3章	
※	3.2. 地盤土及び盛土	・ A種	※ B種 ・ C種 ・ D種
※	3.2.5 建設発生土の処理	※場外指定地処分 ・ 場内処分 (・ 敷き均し ・ ())	
・	3.3.1 山留め	・ 鋼矢張工法 ・ 鋼杭横矢張工法 (※1鋼 ・ ()) ・ ()	
・	地盤改良 (固化工材添加量の決定)	工事完了時 (・ 撤去 ・ 存置 ・ 図示による) 材料 : セメント系 ・ () 使用量 kg/m ³ (程度) 製造所 : () 範囲 : ※図示による ・ () 室内配合試験 : (1) 地盤改良範囲内の土質が不明な場合は、必要に応じ、監督職員と協議の上、試験機により土質を確證し固化工材添加量を決定する。なお、最小添加量は 50kg/m ³ とする。 (2) 配合設計時における地盤改良の強度試験は、室内配合試験 (一軸圧縮試験にて目標強度 2.2kg/cm ²) とし、試験の結果を報告書にまとめ、速やかに監督職員に提出するものとする。 (3) 室内配合試験において目標強度が得られない場合は、監督職員と協議の上、固化工材添加量を変更するものとする	
・	地盤改良 (改良深さの決定)	・ サウンディング試験 (ケ所) (1) 地盤改良範囲内の N 値が不明な場合は、サウンディング試験により N 値を求める。 この際、換算式は (公社) 地盤工学会刊行の「地盤調査法」に示す「福田の式」による。 (2) 上記の換算 N 値に基づき、「大阪府営住宅設計要領」により地盤改良深さを決定する。	
・	六価クロム溶出試験	・ 六価クロム溶出試験 (ケ所) (1) 試験は「セメント及びセメント系固化工材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領 (案) (国土交通省)」による。環境庁告示 46号溶出試験及びタンクリーチング試験とし、試験の結果を報告書にまとめ、速やかに監督職員に提出するものとする。 (2) 配合設計時における六価クロム溶出試験の結果、六価クロム溶出濃度が土壌環境基準 (0.05mg/l) を越える場合は、配合設計もしくは工法の変更を行なうものとする。	

第11章 地業工事 (標仕 第4章)	
・	杭工事 ※含む(別途特記仕様書による) ・ 別途工事
・	4.1.3 施工一般 (7)安全管理は、1.3.7「施行中の安全確保」による。 施工機械が傾斜し、転倒しないよう作業地盤を養生すること。
・	4.1.8 杭頭の処理 ※含む ・ 別途
・	杭芯ずれ補強 ※含む(但し、補強費用は杭工事施工者の負担とする。) ・ 別途
・	高止まり、低止まり補強 ※含む(但し、補強費用は杭工事施工者の負担とする。) ・ 別途
・	直接基礎 ・ 独立基礎 ・ 布基礎 ・ ベタ基礎
・	直接基礎の許容地耐力 () kN/m ² (長期) 平板載荷試験：要 () 所 ・ 不要
・	地盤改良工法等 ・ 地盤改良工法 (別途特記仕様書参照) ・ 図示による。 許容地耐力 () kN/m ² 材料：セメント系 () 使用量 () kg/m ³ 程度 製造所：() 試験：平板載荷試験 () 所 ・ 六価クロム溶出試験 () 所 (仕様は「第3章 土工」に準ずる。)
※	4.6.3 砂利及び砂地業 材料：砂利 (※再生クラッシュラン(RC-40) ・ 切込砂利 ・ 切込砕石) 厚さ：※60mm () mm 範囲：※基礎下、基礎梁上、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ()
※	目つぶし砂 目つぶし砂利 (※再生クラッシュラン(RC-40)但し、直接基礎下は除く) ()
※	4.6.4 捨てコンクリート地業 厚さ：※50mm () mm コンクリートの種類：※普通コンクリート () 設計基準強度：※18N/mm ² () スラブ：※15cm ・ 18cm () cm
※	4.6.5 床下防湿層 材料：ポリエチレンフィルム 厚さ：※0.15mm (2枚敷) () mm () 枚敷 範囲：※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く) ・ 図示による。 重ね合わせ及び基礎梁際の折り下りの長さ：※250mm () mm

第12章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 (標仕 第8章)	
・ 8.2.2 補強コンクリートブロック造	材料：JISA5406の規格品とする。 種類：※空洞ブロック 16 厚さ： mm 継ぎ：※普通 ・ 防水
・ 8.2.3 モルタルの調合	容積比 セメント()：砂()
・ 8.2.8 モルタル及びコンクリートの充填	※充填するブロックの範囲：図示による。
・ 8.3.2 コンクリートブロック縦壁及び塀	材料：JISA5406の規格品とする。 種類：※8.3.1表による 厚さ： mm
・ 8.4.2 ALCパネル	※JIS A5416の規格品 ・ () 種類： 単位重量： 厚さ： 幅： 長さ： 床パネルの耐火性能：

8.4.3
外壁パネル構法

8.4.4
間仕切壁パネル構法

8.4.5
屋根及び床パネル構法

耐風圧性能、耐震性能：図示による

表面形状、パネル幅：図示による

目地幅、目地材の仕様等：図示による

使用箇所	・外壁	・間仕切壁	・屋根及び床
厚さ (mm)	・	・	・
パネル幅の最小限度(mm)	・	・	・
工法種別	・ A 種 ・ B 種	・ C 種 ・ D 種 ・ E 種	・ F 種

※長さ、防火性能：図示による

8.5.2
押出成形セメント板 (BCP) 材料

※JIS A5441 の規格品

表面形状 ： ・図示による ・

8.5.3
外壁パネル工法

8.5.4
間仕切壁パネル工法

耐風圧性能、耐震性能、防火性能：図示による

目地幅、目地材の仕様等：図示による

使用箇所	・外壁	・間仕切壁
厚さ (mm)	・ 60 ・	・
パネル幅の最小限度(mm)	※300 mm ・	・
工法種別	・ A 種 ・ B 種	・ B 種 ・ C 種

8.5.5
溝廻り及び開口部の措置

パネルの開口の限度：図示による

第13章 石工事 (標仕 第10章)						
・	10.2.1 天然石 テラゾ	・天然石 ・テラゾ ※JIS A 5411 による				
		種類	品質	表面仕上げ	厚さ	使用場所
・	10.2.2 取付け金物	受金物：・(材質： 形状及び寸法：) ・図示 外壁乾式工法用金物の方式：・スライド方式 ・ロッキング方式 特殊部位金物：(材質： 寸法：) ・図示 アンカー：・(材質： 寸法：) ・図示 ・後 チンカー				
・	10.2.3 その他の材料	浸透性防水防止剤：・(種類) ・専門工事業者の指定する製品				

第14章 カーテンウォール工事 (標準 第17章)	
・ 17.2 メタルカーテンウォール	※図示による
・ 17.3 PC カーテンウォール	※図示による

第15章 ユニット及びその他の工事 (標仕 第20章)		
	20.2.5 トイレブース	材料:・メタミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板
※	20.2.6 手すり	材質:※SUS304 ・図示による
・	20.2.7 階段滑止め	材料:・真鍮 ・ステンレス ・アルミ 工法:※接着工法 ・埋込み工法 ・踏幅寸法 mm
・	20.2.9 黒板及びホワイトボード	JIS S 6007 (黒板) に基づく 区分:・焼付 ・ 種類:・鋼製黒板 ・ほうろう黒板
・	20.2.11 表示	・衝突防止表示:図示による ・法令に基づく表示:図示による ・室名札等 形式:・正面付け ・片持出し ・図示による 材質:・アクリル製市場品 ・図示による
※	20.2.12 タラップ	材質:※SUS304 ・19φ丸鋸 (※溶融亜鉛めっきC種 ・SOP塗り) ・図示による
・	20.2.16 カーテン及びカーテンレール	種類:・ステンレス製 ※アルミ製 形式:・シングル ・ダブル ・片引き ・引分付
・	収納・収納家具	合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外材料 ・第三種材料 ※費削減製ボックスめっき 250mm×180mm ・
・	建物表示板	※図示による
・	床下換気孔	・硬質塩ビエルボパイプ φ50mm、防虫網付
・	天井裏換気孔	・図示による
・	20.4(1) 石積み擁壁	種類:・間知石積 ・割石積 ・雑石積 ・玉石積み 材質:・花崗岩 ・図示による
・	20.4(2) コンクリート間知ブロック積	※図示による
・	コンクリート擁壁	※図示による ・鉄筋コンクリート造 (Fc= N/mm ²) ・鉄筋コンクリート造 (・Fc= N/mm ² ・容積比1:3:6)
・	フェンス、外柵	材質、形状:※図製品 ・図示による 基礎:・布基礎(巾120mm×根入れ450mm以上) ※既製独立基礎 ・図示による
・	掲示板	※図示による
・	建物名称板	※図示による
・	案内標識板	※図示による
・	定礎石	※図示による

第16章 排水工事 (標仕 第21章)

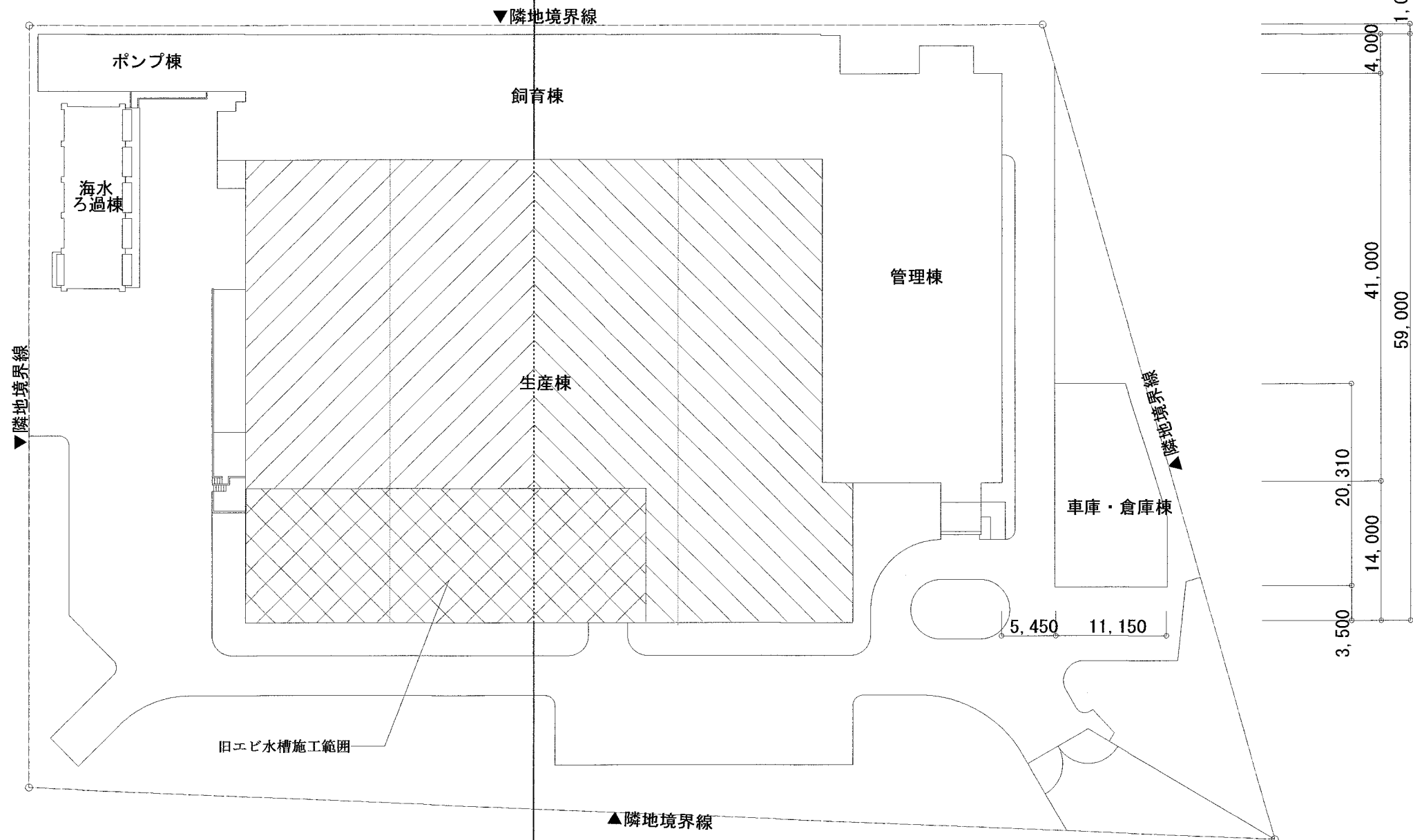
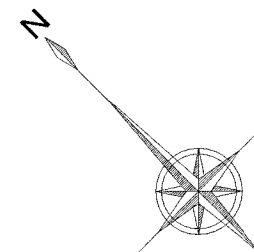
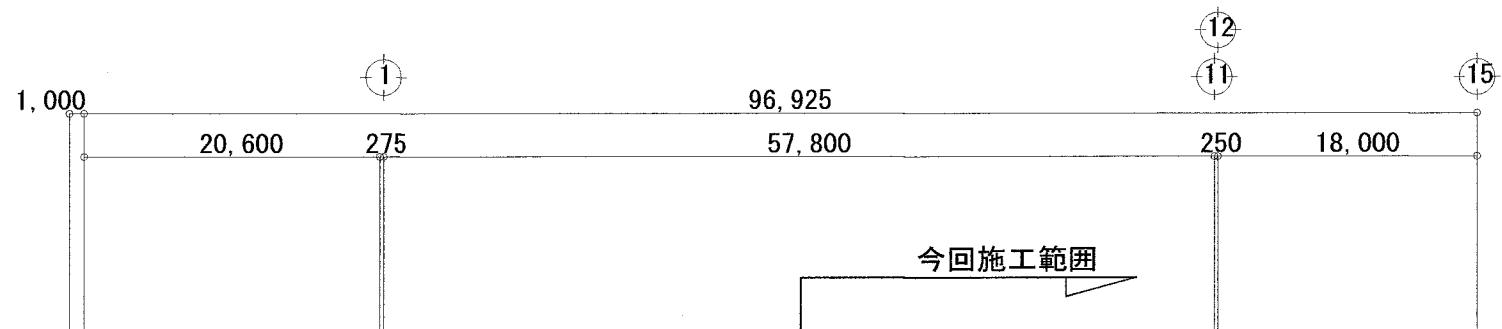
・	21.2	材料：・連心力鉄筋コンクリート管	・硬質ポリ塩ビル管
・	排水管	・リサイクル硬質塩化ビニル三層管	
・	排水槽	材料：・現場打コンクリート	・既製品
・	21.3	材料：・現場打コンクリート製	・JISA5372 U字溝
・	側溝	・JISA5372 鉄筋コンクリートL型	
・	側溝のフタ	材料：・グレーチング	
		材質：※ステンレス	・スチール（溶融亜鉛メッキ）
			・FRP

第17章 舗装工事（標仕 第2.2章）		
※	22.1 一般事項	(a) 工事施工に際し、地下埋設物等工事に支障をきたす作業を発見した場合は、監督職員と協議する。 (b) 工事の施工に際しては、交通安全その他保安に関する所轄警察署との協議事項を遵守するとともに、関係官公署等との協議が必要な時、又は協議を申し入れられた時は、監督職員に連絡の上指示を受ける。 (c) 道路等、第三者の通行がある箇所では施工をする場合は必要に応じ交通安全施設設置基準により標示施設、防護施設を設置し、毎日点検保全に努めること。
・	22.2 路床	工法：・在来土層削り ・在来土盤転圧 ・盛土（表3.2.1 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種） 支持力比試験：・行わない ・行う（ 箇所） 締固め度試験：・行わない ・行う（埋戻し及び盛土部 箇所） 路床安定処理：・要（材料の種類： ） ・不要 ※在来砂利層を盛定して路盤とする場合は、モータークレーダーでかき起こして整正する。
・	22.3 路盤	厚さ： mm 材料：※再生クラッシュサン(RC-40) ・クラッシュサン ・粒度調整碎石(RM-40) 路盤の締固め度試験：・行わない ・行う（ 箇所）
・	22.4 アスファルト舗装	舗装の構成 厚さ： mm 材料：※再生加熱アスファルト（混合物の種類、使用部位は、図示による。） ・加熱アスファルト（混合物の種類、使用部位は、図示による。） 試験：アスファルト混合物の抽出試験：・行わない ・行う
・	22.5 コンクリート舗装	舗装構成： 厚さ： mm コンクリート：※表22.5.1による 注入目地材料：※低弾性タイプ ・高弾性タイプ コア抜き試験：・行う ・行わない
・	22.6 カラー舗装	材料：図示による。
・	特殊舗装	・透水性アスファルト舗装 ・ブロック系舗装 試験：アスファルト混合物の抽出試験： ・行わない ・行う（・透水性アスファルト）
・	22.9 砂利敷き	種別：※通路A種建物周囲その他B種 A種の下敷き材料：※再生クラッシュサン(RC-40)

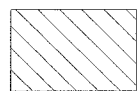
第18章 植栽工事及び屋上緑化工事（標仕 第23章）		
・	23.2.3 植え込み用土	※現場発生の良質土 ・客土
・	土壌改良材	種別：

第19章 その他		

令和5年1月1日改定		地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所	工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日 令和7年8月	図面番号 A-06
			図面名称 特記仕様書 (5)	縮尺: A1	縮尺: A3	工事番号 R 一	



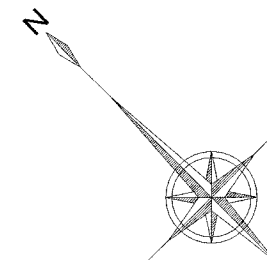
・・・今回1階旧エビ水槽改修範囲を示す



・・・今回屋根改修範囲を示す

配置図

工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日	図面番号
図面名称 配置図	縮尺：A1	縮尺：A3	令和 7 年 8 月 日 工事番号	A-07
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所				



- TR 既設ガラススレート撤去
- 既設スレート屋根撤去 (アスベストみなし)
- 工事対象外

43,000

撤去屋根伏図 1/400

外部足場W600
3段～6段
養生シート

既設棟包み撤去

既設縦樋
撤去・新設
Φ150

外部足場W600
3段 養生シート

既設軒樋撤去・新設
W200

外部足場W600 3段
養生シート

※仮設足場 (参考図)
内部ステージ足場
落下防止養生
工事範囲内は
養生シートにて区画すること

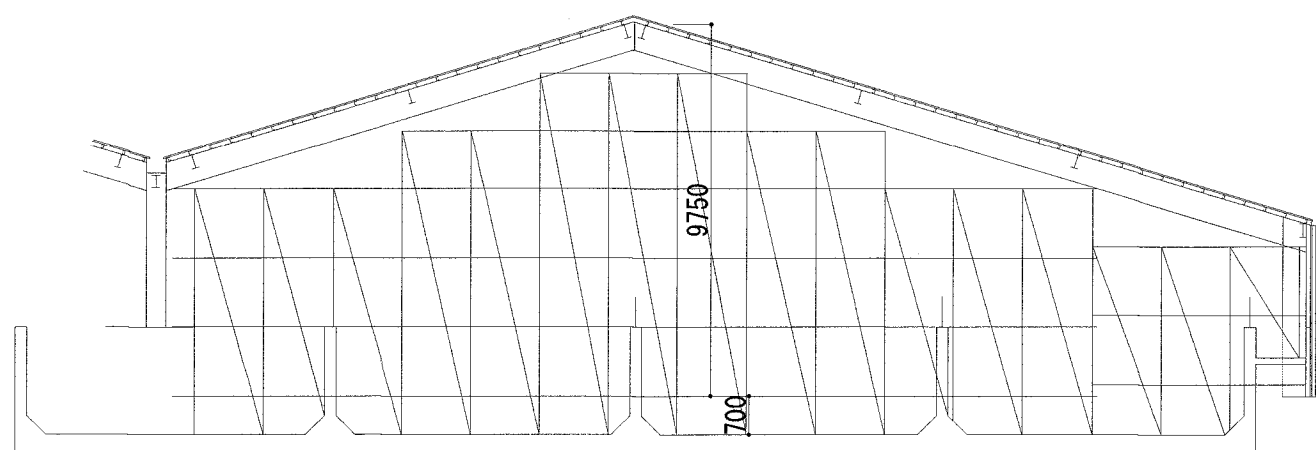
※既設アンカーボルトはすべて撤去のこと

※既設設備配管等工事に支障のある場合は
監督職員と協議の上、施工すること

※屋根受のC形鉄骨を調査し、
腐食部分は交換及び錆止め処理を行うこと
数量及び箇所数は監督職員と協議すること

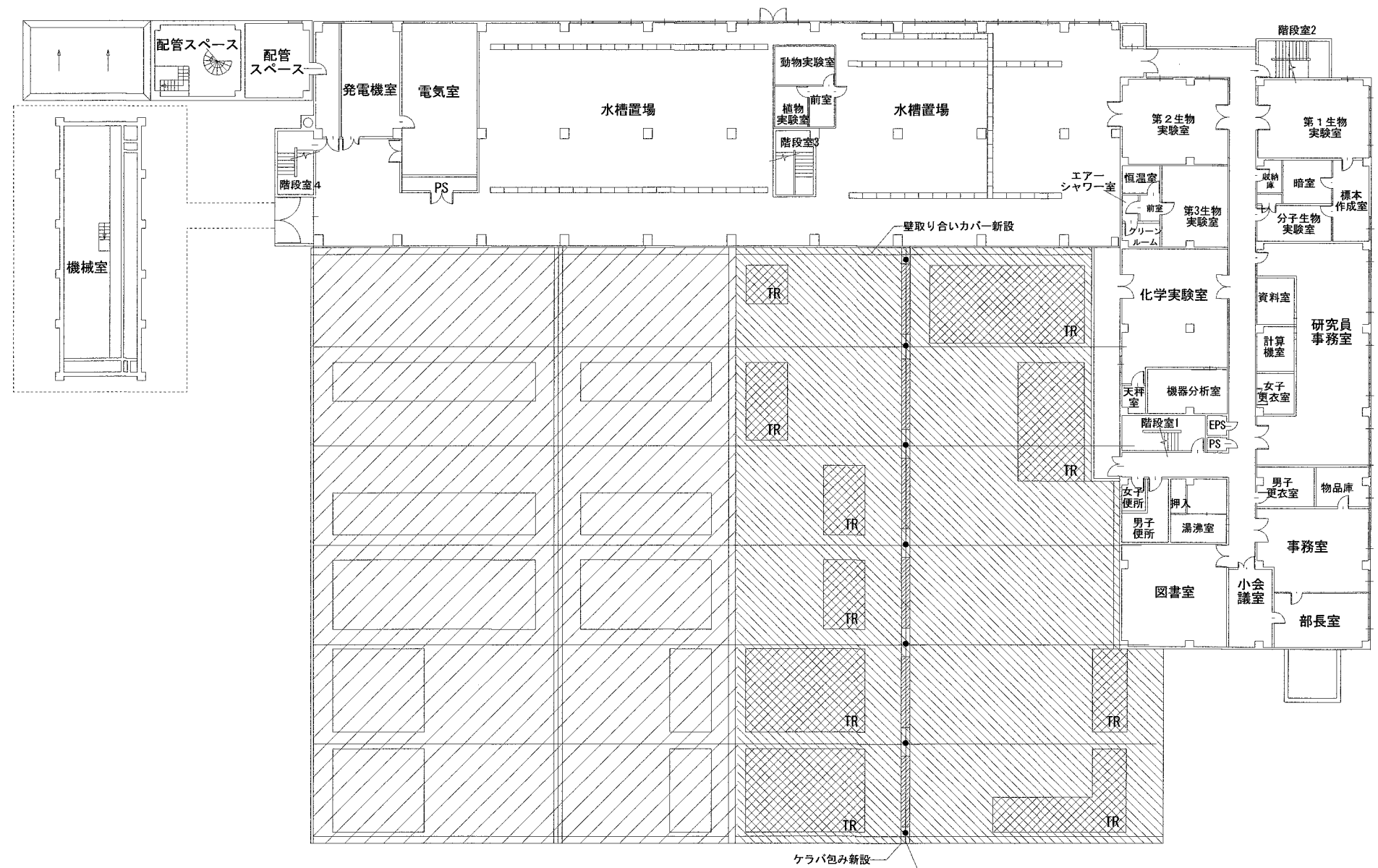
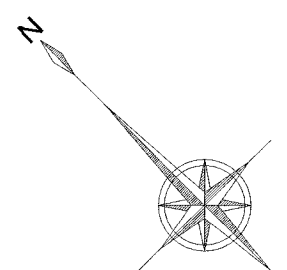
※メーカー仕様に基づいて施工すること
(事前に監督員の承認を得ること)

※アスベスト含有建材は適切に処理をすること



断面図 1/200

工事名称	水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日	図面番号
図面名称	撤去図面・仮設 (参考) 図面	縮尺: A1	縮尺: A3	令和 7年 8月 日	A-08
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所					

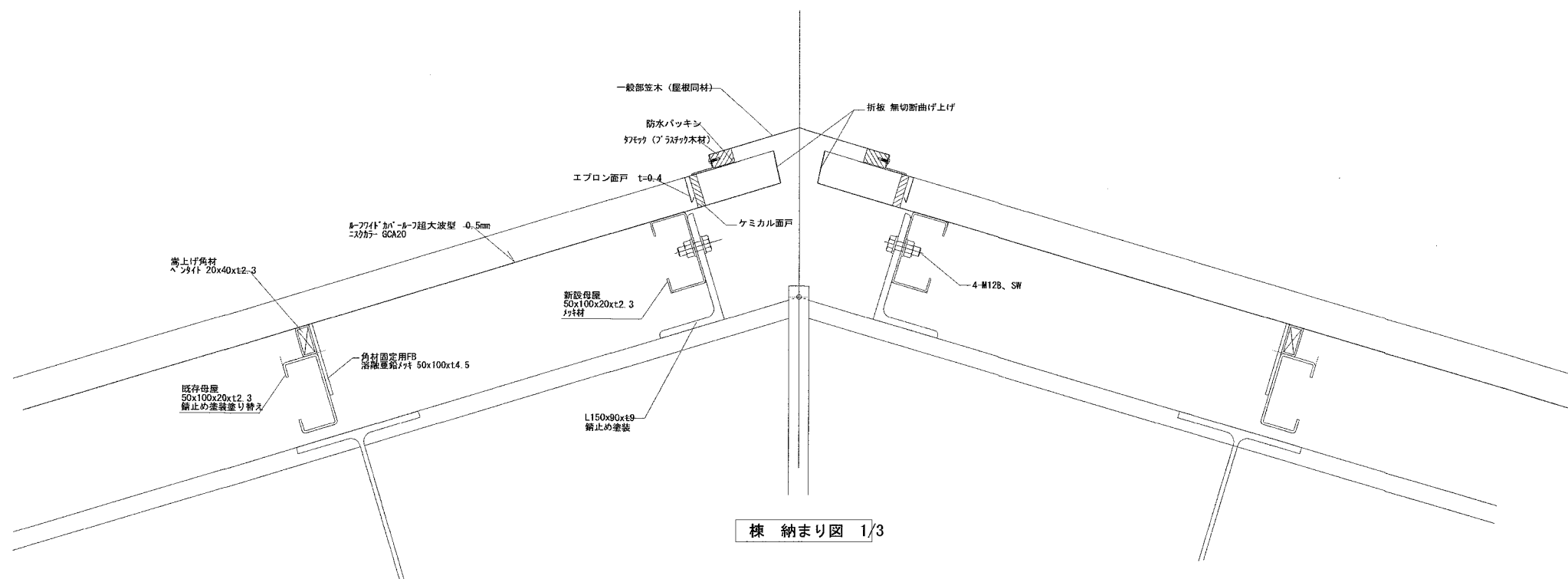
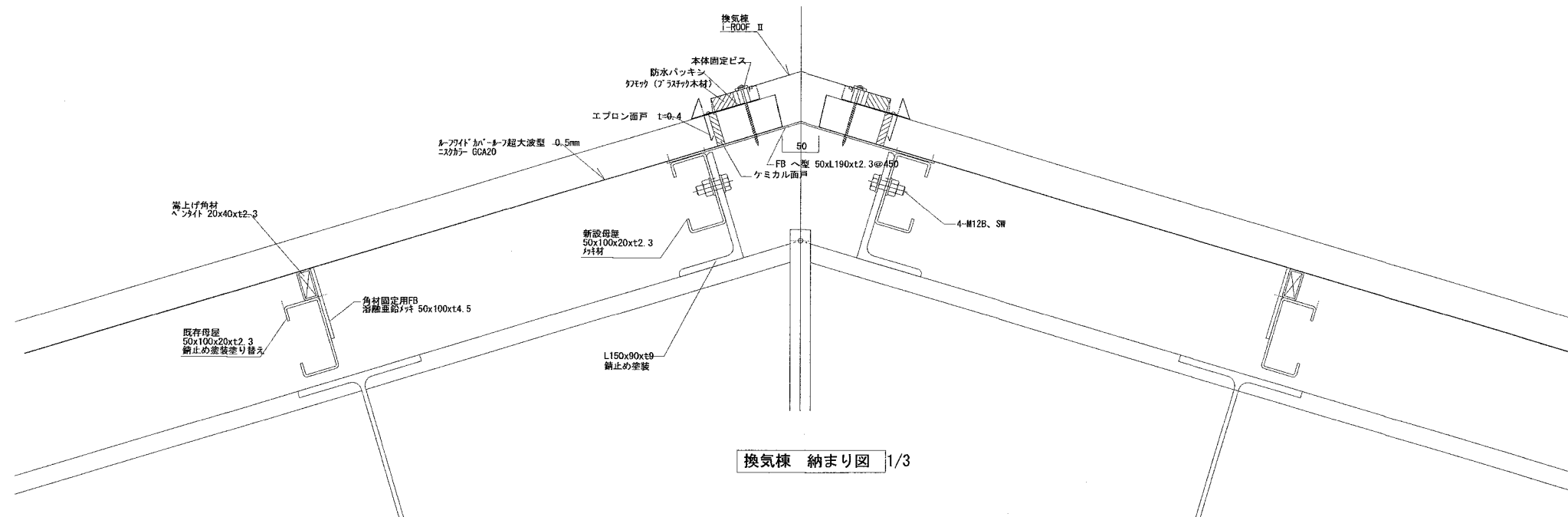


- 新設折板屋根 t0.6 (カバー工法)
- 新設ポリカ折半 t1.5
- 工事対象外
- 吊環 (SUS)
- 換気棟 (自然換気式)

工事仕様
・改修仕様書（令和4年度版とする）
・図面に記載なき事項については、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の
公共建築工事標準仕様書（建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編）
公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編）
公共建築工事標準図（建築工事編・電気設備工事編・機械設備工事編）による。
・既設の取り合い部分、納まり等については現場にて調整する。
・仮設計画、工事工程計画については、施設担当者で協議し、施設運営に
支障の無いように調整すること。

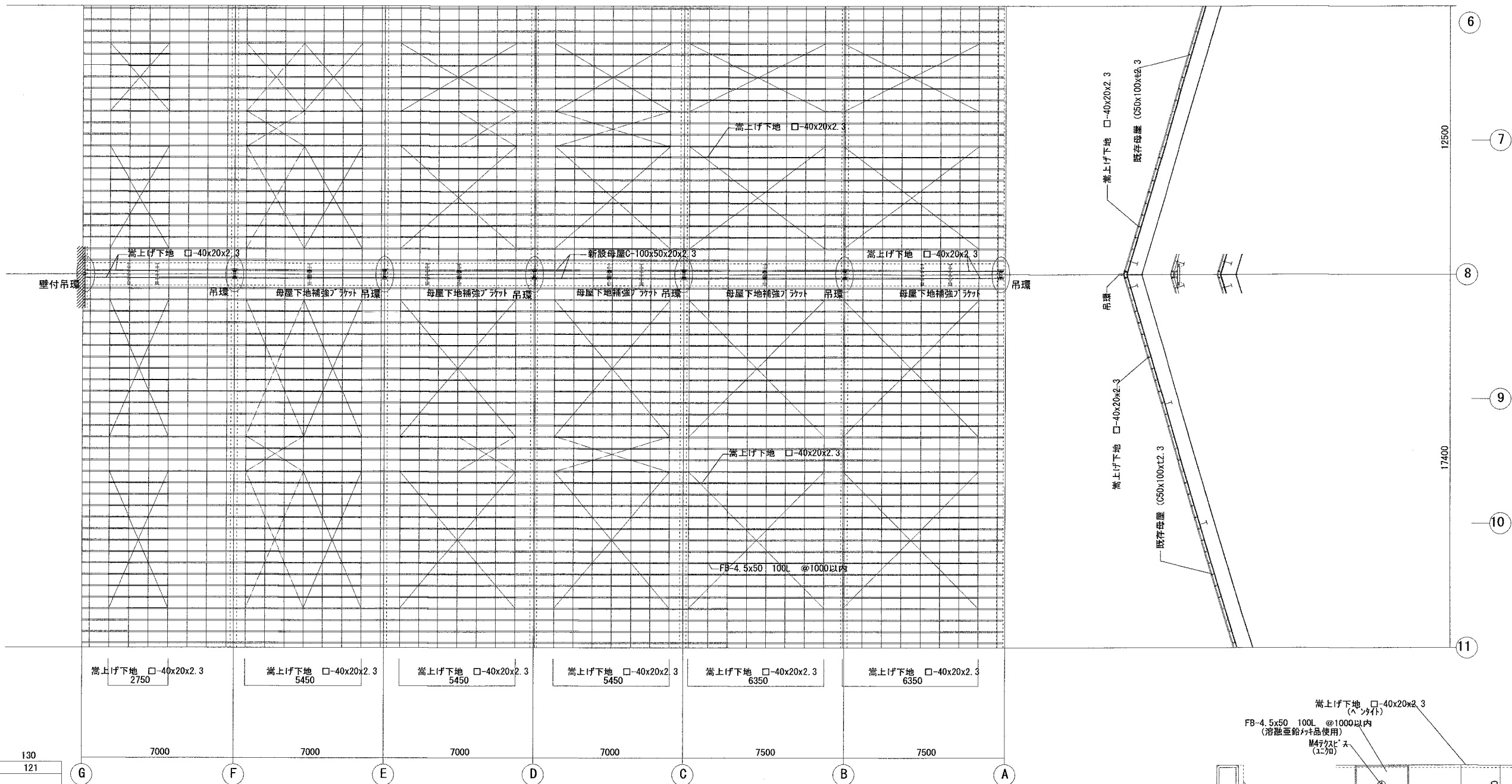
※ 既設撤去部分の部位上はすべて嵩上げをすること

工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日 令和7年 6月 日	図面番号 A-09
図面名称 改修図	縮尺 A1	縮尺 A3	工事番号	
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所				

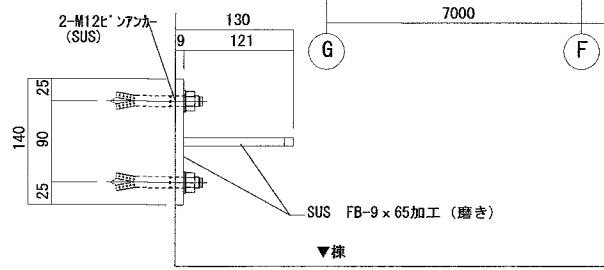


※屋根材は (株) 小池弥太郎商店
成型スレート大波 同等品以上

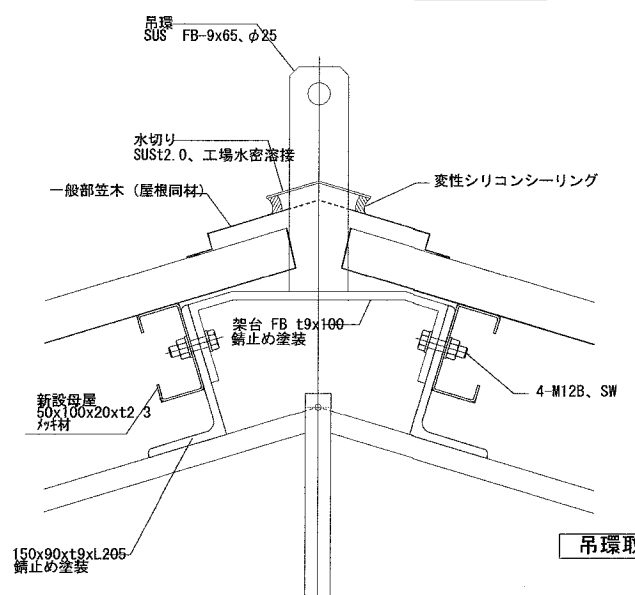
工事名称	水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日	図面番号
図面名称	各種詳細図1	縮尺: A1	縮尺: A3	令和 2年 8月 日	A-10
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所					



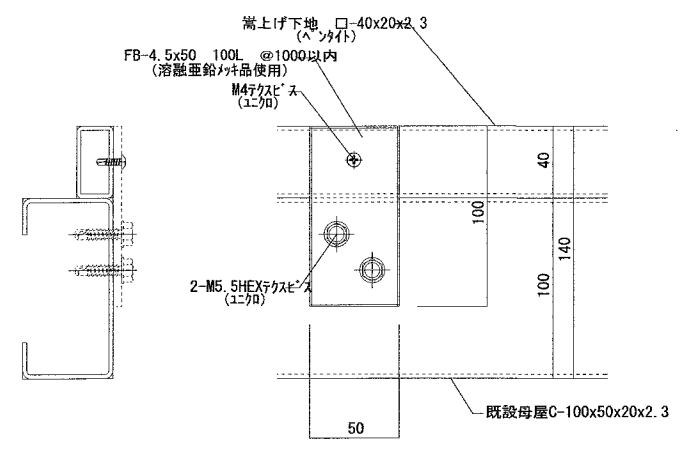
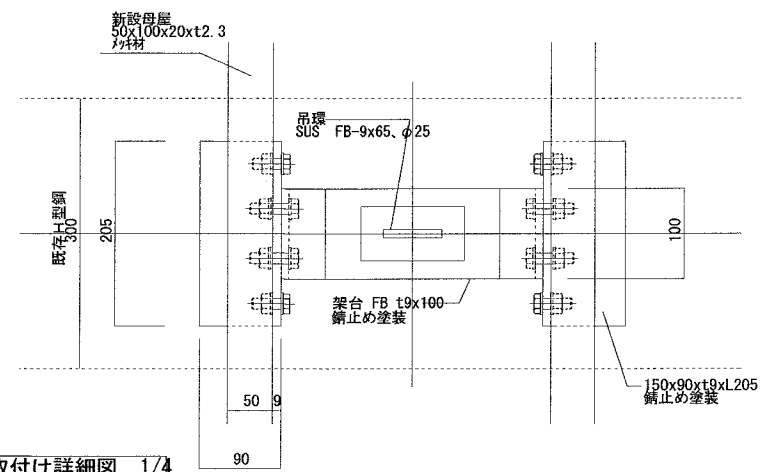
屋根伏図 1/100



G通 壁付け 吊金具 詳細図 1/4



吊環取付け詳細図 1/4



高上げ下地 詳細図 1/2

※屋根材は (株) 小池弥太郎商店
成型スレート大波 同等品以上

工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日	図面番号
図面名称 各種詳細図 2	縮尺: A1	縮尺: A3	令和 7 年 8 月 日	A-11
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所			工事番号	

新設折板：ルーフワイドカバー超大大波型 t=0.5mm
 新設ポリカ：タクロンシアーイ ポリカホネット t=1.5

共通
 既存フック切断、除去

嵩上げ材
 ST□20xH40, t2.3, 亜鉛メッキ

角材取付用FB 溶融亜鉛メッキ
 t4.5x50x100程度、@1000以内

共通
 既存ビス頭余長分カット
 既設超大大波スレート

FB t4.5mm、@1000以内

嵩上げ材

嵩上角材長さ @900~+50mm

ポリカ巾 実測値 (ビス芯~芯 @900)

共通
 既存ビス頭余長分カット

既存存置 (スレート)

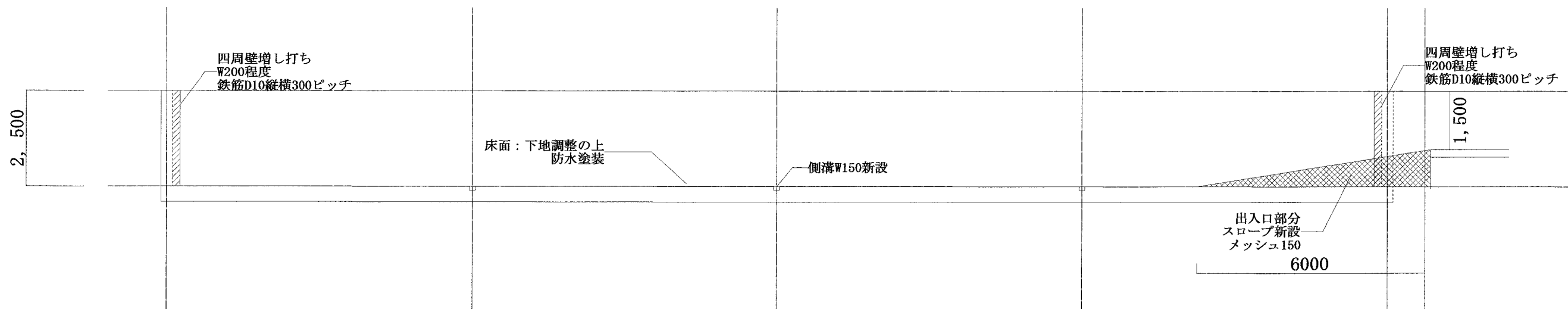
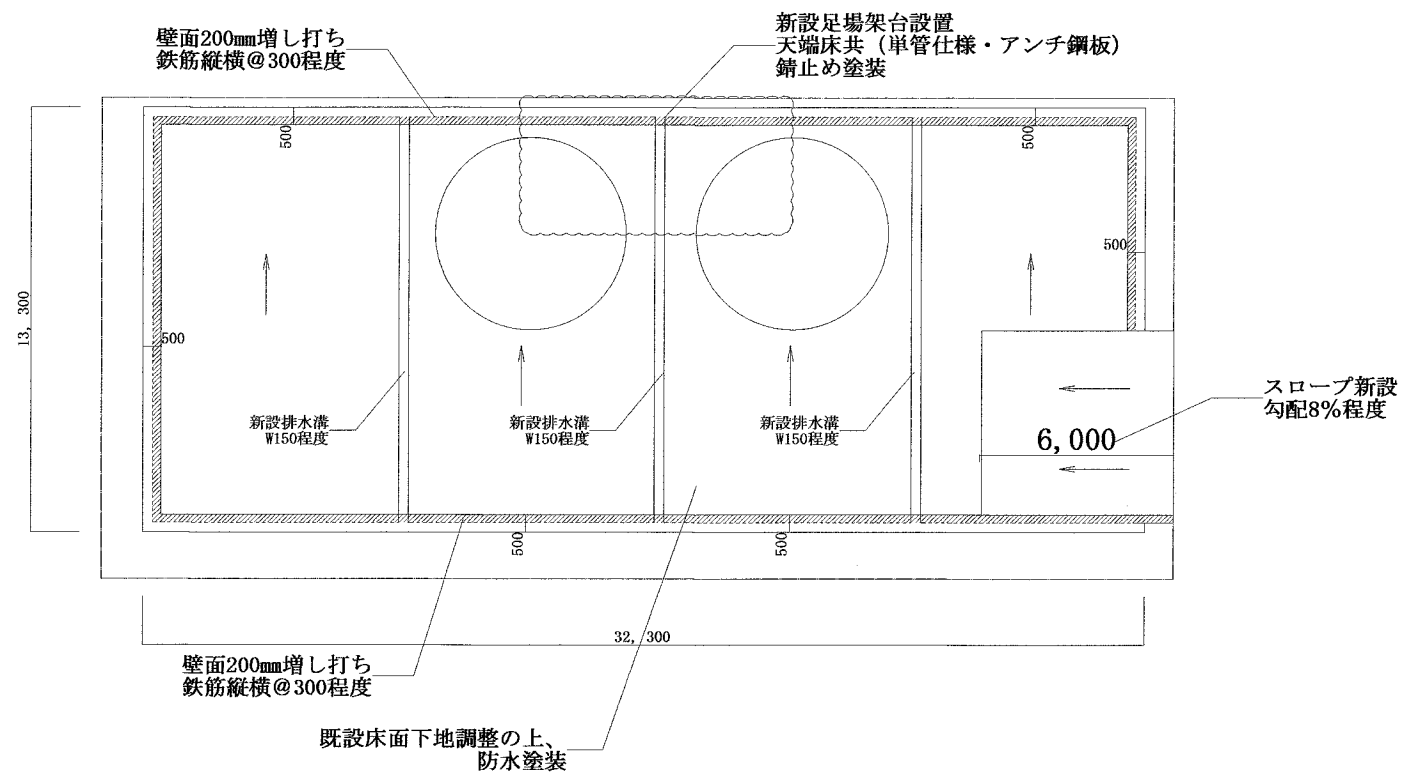
ガラス撤去
 (網入り型板ガラスt=6.8mm)

嵩上げ材

既存ガラス部分 詳細図

※屋根材は(株)小池弥太郎商店
 成型スレート大波 同等品以上

工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事		設計年月日 令和7年8月	図面番号 A-12
図面名称 各種詳細図3	縮尺 A1	縮尺 A3	工事番号
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所			



※コンクリート強度 FC24
 ※新設足場架台は施設と協議し
 高さ・位置を確認すること
 ※床防水はノズリップ 対応のこと

工事名称 水産技術センター生産棟屋根改修その他工事			設計年月日	図面番号
図面名称 旧エビ水槽改修平面・断面図	縮尺：A1	縮尺：A3	令和 7年 8月 日	A-14
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所			工事番号	